

所報2021

おおすみ



独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立大隅青少年自然の家

目 次

はじめに

I	令和2年度 国立大隅青少年自然の家運営の概況	1
1	基本的な運営方針	1
2	事業運営に関する事項	1
3	業務運営に関する事項	3
4	各事業の実施状況	5
5	教育事業等の開催一覧（令和2年度実績）	6
6	教育事業等の実施状況	8
	体験の風をおこそう「ファミリーキャンプ ^{①・③・④・⑤} 」	8
	ボランティア養成研修	12
	おおすみくん家に遊びに来ませんか！	13
	教員免許状更新講習	14
	海からのメッセージ	15
	リフレッシュキャンプ	19
	おおすみくん家 キッズたんけんたい ^{①・②}	20
	おおすみくん家 漂流物たんけん隊	22
	おおすみくん家 通学合宿	23
	少年少女登山教室	25
	家で遊ぼう！ おおすみくん家 大感謝祭	26
7	令和2年度利用状況	27
8	令和2年度における傷病発生状況	29
II	令和2年度 業務運営の概要	31
1	業務運営の組織	31
2	施設業務運営委員会	31
3	業務運営の概況	32
III	令和3年度 国立大隅青少年自然の家運営方針	33
1	基本的な運営方針	33
2	事業運営に関する事項	33
3	教育事業の質の充実と普及	33
4	研修支援の充実と利用拡大	35
5	安全安心な教育環境の確保	36
6	業務運営に関する事項	37
IV	令和3年度 教育事業等の計画一覧	40

『私たちは国立大隅青少年自然の家の活動を応援しています』

はじめに

国立青少年教育振興機構は「体験活動を通じた青少年の自立」を目指し、青少年の体験が不足している状況を踏まえ、全国に28ある施設がそれぞれの立地・環境を活用した体験活動の機会と場を提供しています。

当国立大隅青少年自然の家「おすすみく^ちん家」は、背後に高隅山系、眼下に錦江湾と豊かな自然環境に囲まれたところに立地しており、その自然資源を活かし海浜活動、ハイキング、自然工作、野外炊事等のプログラムを提供しています。

当施設の利用については、年度当初から宿泊室、食堂、研修室や野外炊飯場などの定員をおおむね半分に減らすなど三密を避けた利用をお願いするとともに、所内各所にアルコール除菌スプレーを設置するなど新型コロナウイルスの感染拡大防止対策をとっています。そのような中でも令和2年度は、小中学校の宿泊学習や青少年団体の活動、高校・大学の合宿、企業研修等日帰りも含め約1万9千人の方々にご利用いただきました（昨年度は約6万6千人）。

また当施設が主催して行う教育事業については、新型コロナウイルスの感染拡大や天候不良により当初の計画から7事業を中止としましたが、青少年や家族を対象とした体験活動事業や指導者等の研修に関するものなど計14事業を行いました。中でも看板事業に位置づけ長期の自然体験活動事業である「海からのメッセージ」では、例年近隣の小学校等の体育館をお借りし宿泊をしながらの移動型キャンプから、当所の海浜施設での定住型キャンプに変更し、宿泊するテントも一人用のものを使用するなど感染症対策をしながら実施しました。また新規プログラム開発の試行事業として、錦江湾の漂流物の採集・観察を通して環境について考える「漂流物たんけん隊」に取り組みました。

本報告書はこれら教育事業の実施概要とその成果と課題についてや利用統計データ、施設管理等についてまとめたものです。是非御一読いただき、忌憚のない御意見・御助言等いただければ幸いです。また、「この事業を参考にしたい、もう少し詳しく知りたい」などありましたらお気軽にお問い合わせください。

おわりに、当施設の事業運営に御支援・御協力をいただきました関係機関、関係各位の皆様方に厚くお礼申し上げます。

令和3年5月

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立大隅青少年自然の家

所 長 山 下 達 也

I 令和2年度 国立大隅青少年自然の家運営の概況

1 基本的な運営方針

国立大隅青少年自然の家（以下「当施設」という。）は、国の青少年教育行政に関する基本方針及び独立行政法人国立青少年教育振興機構第3期中期目標・中期計画の最終年度となる令和2年度計画を踏まえ、「新・機構元気プラン」を着実に実行する。そのために青少年教育のナショナルセンターとしての教育施設の機能強化に努め、青少年や青少年教育指導者を対象とする当施設の特色を活かした質の高い教育事業及び研修利用者への指導・助言を行う研修支援事業を充実させるとともに、効率的・効果的な施設運営によって利用者へのサービスの向上や広報の充実による利用の拡大を図る。

併せて、「体験の風をおこそう」運動及び「早寝早起き朝ごはん」国民運動を通して、体験活動をより一層推進する。

2 事業運営に関する事項

(1) 事業方針

- ① 子供たちの体験活動の充実や基本的生活習慣の確立のため、「体験の風をおこそう」運動及び「早寝早起き朝ごはん」国民運動の普及啓発をより一層推進する。
- ② 魅力ある感動体験を提供するため、各事業の質の向上やプログラムの改善に努めるとともに、基本的生活指導の徹底を図る。
- ③ 青少年の今日的な課題に対応するための地域力向上事業を厳選・特化して行うとともに、継続的な参加者の変容把握に努める。
- ④ 稼働率向上のために、施設業務運営委員会の専門部会で出された意見を広報活動に反映させるなど利用促進策を常に見直し、広報活動の充実による新規利用者の確保に努める。
- ⑤ 利用者へのサービス向上を図るとともに、安全安心な教育環境の整備・充実に努める。

(2) 教育事業の質の充実と普及

① 看板事業、地域力向上事業の実施

ア 看板事業の実施

長期自然体験活動を通して、豊かな人間性や青少年の生きる力を育むとともに、異年齢との交流を図りながら、不登校など心に悩みをもつ青少年の自立を支援する「海からのメッセージ」を実施する。また、この事業を通してボランティアのスキルアップを図る。

なお、実施の際には、マスコミの報道発表等を行い、取材を受けられるようにするなど、広報の充実に努める。

イ 地域力向上事業の実施

鹿屋体育大学との連携協定に基づき、青少年の体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上やコミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援することを目的に「おおすみくん家スポーツキャンプ」（バレーボール・野球・バスケットボール）を実施する。

ウ 鹿児島県教育庁と連携した不登校生支援事業の実施

鹿児島県教育庁義務教育課と連携して、不登校及び不登校傾向の小・中・高校生を対象に、自然体験活動の楽しさや人とのふれあいの大切さを知ることが目的とした「おおすみくん家に遊びに来ませんか！」を年6回実施する。

② 体験活動や基本的生活習慣等の重要性に関する普及啓発

普及啓発事業の実施

ア 「体験の風をおこそう」運動の推進

様々な体験活動や基本的生活習慣の重要性を普及するため、鹿児島県及び宮崎県、市町教育委員会、青少年教育施設、学校、青少年団体、企業、NPO法人等と連携し、『鹿児島・宮崎「体験の風をおこそう」運動推進事業』を推進する。（スタンプラリー、フェスティバル、かのやばら祭りウオーキング大会等）

また、地域行事等も積極的に活用しながら、保護者や学校、さらには広く社会に対して体験活動や基本的生活習慣の重要性を訴える。

併せて、地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業の協力団体の増加に努める。

(かのやばら祭り、エアーメモリアルinかのや、かのやマリンフェスタ、錦江湾シーカヤック大会in垂水、ツール・ド・おおすみecoサイクリング大会等)

イ 「早寝早起き朝ごはん」国民運動の推進

基本的生活習慣の重要性を普及するため、保護者や学校、さらには広く社会に対して効果的な事業や取組を発信しながら「早寝早起き朝ごはん」国民運動を推進する。

ウ 親子を対象とした事業

親子を対象とした教育事業「ファミリーキャンプ」を年間6回実施することにより、家族のつながりを深めるとともに、他の家族との交流を図り、共同生活を通して、生活習慣や社会規範等の社会性を身に付けさせる。

また、当施設の特色ある活動プログラムや時季に合わせた自然体験活動を実施し、体験することの楽しさや重要性を体感させ、体験活動や基本的生活習慣等の重要性について普及啓発を図る。

エ 幼児を対象とした事業

幼児期は運動機能が急速に発達し、多様な動きを身に付けやすい時期であることから、自然物に興味を持ちながら自発的に動き回る機会を設けることを目的に「しぜんとともだち」を実施するとともに、研修会等を通じて幼稚園・保育園等が幼児期の教育方法等を広めることができる普及啓発活動を実施する。

③ 青少年教育指導者等の養成・研修事業の実施

ア ボランティア養成研修の実施

教育事業や研修支援等の運営協力・指導補助などを担うボランティアを育成し、青少年教育におけるボランティア活動の一層の推進及びボランティア自身が主体的に企画運営する自主企画事業の実施に向けて「ボランティア養成研修」を実施する。

なお、ボランティア養成研修の実施に当たっては、近隣大学等と連携・協力し、ボランティア養成研修やボランティア活動が大学の授業科目として単位認定できるよう大学側への働きかけを行う。

イ 教員免許状更新講習

現行の学習指導要領及び次期学習指導要領の趣旨を踏まえ、自然体験や集団宿泊活動等に必要知識・技術の向上を図るため、2泊3日の「教員免許状更新講習」を実施する。

ウ 体験活動推進員の養成

平成29年3月に社会教育法が改正されたことを踏まえ、地域学校協働活動を推進するとともに、「体験活動推進員」の養成の方策について検討を進める。

エ 生活・自立支援事業の実施

児童養護施設及び母子生活支援施設で生活する子供たちを対象に、自然体験活動及び生活体験活動を通して基本的生活習慣の確立等の課題に対応するため、生活・自立支援事業「子ども生き生き体験学習」を実施する。

なお、より多くの子供たちに支援する必要があることから同一施設で実施する場合は2年を原則とし、3年目以降については、子どもゆめ基金の活用を含め、児童養護施設等が自主的に開催できるように支援する。

(3) 研修支援の充実と利用拡大

① 安全安心な教育環境の確保（事故ゼロを目指して）

ア 安全安心な教育環境づくり

日々の施設整備に努めるとともに、教材教具・活動備品、活動場所等の日常的な点検・改善整備を通じて、安心安全な教育環境を確保する。

イ 安全指導力の向上

安全指導力の向上を図る研修等を実施するとともに、外部機関等が実施する研修にも積極的に参加させ、職員の指導力を向上させる。

また、安全管理マニュアル等の点検、見直しを常時行い、マニュアルに則した日常業務を行う。

② 利用者数と稼働率の向上

「令和2年度稼働率向上（利用者増加）のための数値目標の設定及び行動計画」を着実に実施し、宿泊室稼働率53.7%以上を目指す。また、平成28年度時点に比べ利用団体数が3%増加するように、新規利用団体等の確保に努める。

令和2年度目標		年 間	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
利用者数 (人)	合 計	74, 000	21, 000	21, 000	21, 800	10, 200
	日帰り	24, 100	6, 000	4, 000	11, 900	2, 200
	宿 泊	49, 900	15, 000	17, 000	9, 900	8, 000
宿泊室稼働率 (%)		53.7	48.0	65.0	49.0	53.0

※ 第4四半期の数値は2月末現在

③ 利用促進のための広報の充実

ア 施設業務運営委員会の専門部会（利用促進部会）などで幼稚園・保育園、小・中学校、高等学校、大学、スポーツ少年団等の年間広報計画（直接訪問計画を含む）を立て、全職員で広報活動を行う。

イ ホームページの更新に努めるとともに、フェイスブックにより積極的に事業等の情報発信をする。

ウ 県や市町広報担当等との連携を図り、広く計画的に広報するとともに、教育委員会や社会教育施設にも出向き、積極的に広報を行う。

エ 地元新聞社、テレビ局、ラジオ局のマスメディアとの連携を深め、マスメディアを活用した広報の充実を図る。

④ 教育機能の充実

ア 集団宿泊による基本的な生活習慣の徹底

基本的な生活習慣の確立や「標準生活時間」による規則正しい生活、加えて「あいさつの励行」「清掃の徹底」「規律ある行動」等の教育的意義の理解を図りつつ、団体打合せや出会いのつどい・朝夕のつどい時における団体責任者や各利用者への指導を徹底する。

イ 学習指導要領等に対応した活動プログラムの実施と学校等での体験活動の展開

新学習指導要領に基づき、教科等と関連付けた体験活動プログラムを教育委員会や学校等と連携して研究するとともに、その成果についてもできる限り検証を行う。

また、幼稚園・保育園等については、幼児期の運動遊びを中心とした運動プログラムの成果を踏まえ、幼児の主体的な活動を促す環境づくり（活動プログラムの開発）を行う。

さらに、小・中学校が集団宿泊学習等を実施するに当たり、学習指導要領に対応した活動プログラムを提示し、学校と連携した体験活動を積極的に推進する。

ウ 職員の資質及び専門的な知識・技能の向上

計画的なプログラム研修を実施するとともに、専門的な知識・技能を高めるために外部講師を招聘した研修を実施する。また、外部機関等が実施する研修にも積極的に参加させ、職員の指導力の向上や安全管理技能、接遇の向上を図る。

3 業務運営に関する事項

(1) 効率的・効果的な組織の運営

① 地域と連携した施設の管理運営

施設業務運営委員会の中に、NPO・企業・各種団体等の代表者が、実際に事業の企画・実施や施設の管理運営、施設の利用促進に参画する専門部会を設置し、年に複数回開催しながら、より効率的・効果的な施設の管理運営に努める。

また、地元企業等との連携も視野に入れ、特に青少年教育活動に賛同していただける企業と連携・協力しながら、教育事業を推進していくことも考慮していく。

② 計画的な人事評価

個々の能力を最大限に発揮させ、組織の活性化を図り効率的な事業運営に資するため、業績評価を年2回、能力評価を年1回実施する。

(2) 効率的な予算執行

① 光熱水料の節減・節約

冷暖房の細かな運転管理、冷暖房吹出温度・期間の管理及び活動プログラムの調整により、効率的な活動計画を行い、光熱水量削減に努める。また、利用者に対しても、打合せ時に節減協力の要請を積極的に行う。

② 適切な外部委託

外部委託業務の簡素化・効率化を検討し仕様内容の見直し等進めながら外部委託を行うとともに、業務が仕様書通りに履行されているか日々の状況確認を徹底する。また、経費の必要性を検討し、職員でその業務の実施をする等、経費削減への対応に努める。

(3) 自己収入の確保

① 協賛事業の積極的な推進

企業等への当施設の持つ機能の理解促進を図り、外部資金による事業等の実施に努める。

② 寄附金の受入の推進

青少年教育活動に理解を得るための広報活動を充実させ、ホームページへの掲載等による企業等からの寄附金の募集を積極的に行い、受入の推進を図り、寄附金の増加に努める。

(4) 計画的な施設・設備の実施

① 防災の観点に立った整備

安全な利用者の活動・生活環境の確保のため、老朽化している箇所の改修整備計画を立て緊急性・必要性を勘案して優先順位を決定するとともに、屋内外用具・設備等の改修整備を進める。

② 研修環境の確保の観点に立った整備

研修環境の改善として、当施設のキャッチフレーズである「錦江湾・黄金の夕日 大隅」としての眺望を確保するよう環境整備を行う。

③ 利用者の意見等を反映した整備

教育事業参加者、研修支援事業における利用者の意見や利用団体活動の多様化に対応するため、管理研修棟及び宿泊棟の生活環境改修を進める。

(5) 安全管理・危機管理等の徹底

① 安全管理・危機管理等マニュアルの整備

不測の事態等において、全職員が迅速かつ適切な対応ができるよう防災業務計画に基づいたマニュアルを整備するとともに、具体的な内容に関し随時見直しを行い、最新の情報を更新する。

② 安全管理・危機管理に関する研修・訓練の実施

不測の事態等に対して、職員が迅速かつ適切な対応ができるよう、関係機関等と連携を図りながら、所内研修及び専門訓練等を確実に実施し、技術・熟練度の向上を図る。

③ 緊急時の対応（主に自然災害や事故）

緊急時の対応として重要なことは、負傷者の救助と汚染拡散防止（二次被害の防止）である。

また、職員は日頃から避難訓練に積極的に参加し、AEDの使用や救急法を学び、緊急事態に直面した場合でも冷静を失わないように心がけるとともに、速やかに上司や関係者に連絡をする。

さらに、避難訓練（火災・地震）を年2回程度実施し、職員の防災に関する意識の高揚を図る。

4 各事業の実施状況

(1) 教育事業等の実施状況

機構の統一テーマである「体験活動を通じた青少年の自立」の具現化を目指して、「独立行政法人青少年教育振興機構の教育事業に関する基本的な考え方」を踏まえ、当施設の立地条件・自然環境・社会環境・地域のニーズ等に対応した事業を展開するとともに、これまでの成果を生かし、今後の当施設の存在意義の確立を目指した教育事業の実施に努めてきた。令和2年度の教育事業等の全体の参加者数は698人であった。

特に、6泊7日の長期自然体験活動事業である「海からのメッセージ」では、錦江湾内の16kmをカヌーで踏破する中で、自然の素晴らしさや厳しさを感じながら達成感を味わうことができ、青少年の生きる力を育む一助となることができた。

また、鹿屋市・垂水市の小学4年生から6年生を対象に、集団宿泊生活や生活体験活動を行いながら学校生活を送る「通学合宿」を実施した。この「通学合宿」は、学校との連携を図りながら延べ414人が参加し、あいさつや返事など、望ましい生活習慣を身に付けるきっかけとなった。

さらに、42家族150人が参加した「体験の風をおこそうファミリーキャンプ」では、自然体験等を通して家族の絆をさらに深めることができた。

7月の九州豪雨で災害があった大隅地区の小・中学生に対しては、「リフレッシュキャンプ」を実施した。境遇を同じにする子どもとの交流や自然体験を通して、日々の生活のありがたさを感じながら生き生きと活動していた。

(2) 研修支援事業の実施状況

令和2年度の当施設の利用団体は541団体、延べ利用者数は18,968人であった。前年度と比して、延べの団体数及び利用者が大幅に減少した。新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う、緊急事態宣言の影響である。

しかし、小学生から大学生・高等専門学校生までの日帰り利用団体数及び利用者は増加している。コロナ禍でのこの増加は、教育機関・地方自治体等への訪問広報の実施や、スポーツ関係団体を通じての合宿誘致に対する広報活動の成果が現れたものと考えられる。

そして、海浜活動やスポーツクライミングのような危険性の高いプログラムに関しては、継続して職員向けの研修を実施しており、利用者がより安全かつ充実した活動ができるような支援体制を維持している。今後も継続した研修支援事業の充実に努めていきたい。

(3) その他の業務の実施状況

子供たちの体験活動の重要性について、また当施設の利用促進について普及・啓発を図るために「体験の風をおこそうフェスティバル」を開催した。また、鹿屋市ばら祭り実行委員会と連携して、かのやばら園において「子ども自然クラフト祭り」を開催し、親子を対象に自然体験やクラフト活動の場の提供を行い、体験活動の重要性について啓発を図りながら、利用促進のために工夫改善を重ねてきた。

さらに、青少年教育への理解を図るために、家族向け広報誌「おおすみくん家通信」を発行するとともに、定期的にホームページの更新を行った。また、職員全員がフェイスブックの更新に携わり、リアルタイムでの情報発信体制を強化した。

5 令和2年度 教育事業等実績一覧

(1) 教育事業

No	事業名	事業の目的	期間	対象	募集人数(人)	参加者数(人)
1	宿泊学習等利用者説明会 ①～③	宿泊学習等における活動プログラムや施設利用について必要な事前説明を行うことにより、児童生徒の活動を充実させる。	① 4.15(水) (1日) ② 4.23(木) (1日) ③ 8.25(火) (1日) ④ 9.15(火) (1日)	登山・ハイキング活動及び海浜活動を計画している学校・青少年団体等の引率者	各20	① 11 ② コロナ関連中止 ③ 21 ④ 21
2	体験の風をおこそうファミリーキャンプ①～③	自然体験・生活体験等を通して、家族の絆を深めるとともに、子どもの豊かな情操を養う。	① 6.27(土)～28(日) (1泊2日) ② 7.11(土)～12(日) (1泊2日) ③ 7.25(土)～26(日) (1泊2日) ④ 12.19(土)～20(日) (1泊2日) ⑤ 1.16(土)～17(日) (1泊2日) ⑥ 2.6(土)～7(日) (1泊2日)	子ども・親	各10家族40	① 10家族40 ② 台風接近に伴う中止 ③ 12家族38 ④ 10家族37 ⑤ 10家族35 ⑥ コロナ関連中止
3	おおすみくん家スポーツキャンプ【バレーボール】	鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき、青少年の体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上やコミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。	5.30(土)～31(日) (1泊2日)	中学生の関係部活動部員及びその指導者	80	コロナ関連中止
4	ボランティア養成研修	青少年教育施設の役割を理解するとともに、野外活動等の指導・支援ができるボランティア及び指導者の養成・確保を図る。	6.13(土)～14(日) (1泊2日)	15歳以上・一般	40	10
5	おおすみくん家に遊びに来ませんか！①～③	不登校及び不登校傾向のある小・中・高校生が体験活動や自然との触れ合い、グループでのレクリエーション活動等を通して、野外活動の楽しさや人との触れ合いの大切さを知る。	① 6.20(土) (1日) ② 9.5(土) (1日) ③ 10.17(土) (1日) ④ 11.21(土) (1日) ⑤ 1.23(土) (1日) ⑥ 3.6(土) (1日)	不登校及び不登校傾向のある小・中・高校生	各10	① 13 ② コロナ関連中止 ③ 9 ④ 15 ⑤ 7 ⑥ 15
6	おおすみくん家スポーツキャンプ【野球】	鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき、青少年の体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上やコミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。	7.18(土)～19(日) (1泊2日)	中学生の関係部活動部員及びその指導者	80	コロナ関連中止
7	しぜんともだち	未就学児(年長園児)が自然の中でできる遊びを体験し、その楽しさを味わうことにより、自然が好きな子どもを育てると自然とともに、共に生きようとする意識を高める。	□ ※ 9月～11月に1泊2日で実施予定	未就学児 ※ 幼稚園・保育園の年長園児	30	コロナ関連中止
8	教員免許状更新講習	教員が体験活動の意義について理解するとともに、児童生徒の集団宿泊学習等を効果的に実施するための基本的な指導技術を身に付ける。 また、学習指導要領における体験活動の取扱いを理解し、教育活動における体験活動の取入れ方を講義及び実技を通して習得する。	7.27(月)～29(水) (2泊3日)	小・中学校教員	40	24
9	海からのメッセージ	鹿児島湾(錦江湾)を舞台に、海の素晴らしさや厳しさを体験することにより海の良さを知り、「生きる力」を育む。 また、長期冒険型活動を通して心に悩みをもつ児童生徒の自立を支援する。	8.9(日)～15(土) (6泊7日)	小学5年生～中・高校生(心に悩みをもつ児童生徒を含む)	24	24
10	リフレッシュキャンプ①・②	7月の九州豪雨に遭われた大隅地区の家庭の小・中学校の子どもたちに対し、境遇を同じくする子どもたちとの交流や自然体験活動を通して、日々の生活を送るための活力を養う一助とする。	① 9.6(日) (1日) ② 10.11(日) (1日)	災害があった大隅地区の小、中学生	20	① 中止 ② 9
11	おおすみくん家キッズたんけんたい①・②	小学校低・中学年の子どもたちが親元を離れて共同生活や自然体験活動を行い、仲間と関わったり、協力したりする活動を通して、自立心や自尊感情を育てる。	① 9.21(月)～22(火) (1泊2日) ② 10.31(土)～11.1(日) (1泊2日)	① 小学1・2年生 ② 小学3・4年生	各40	① 30 ② 29

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	募集 人数 (人)	参加者数 (人)
12	【地域の教育的課題に対応するプログラム】 漂流物たんけん隊	錦江湾内の漂流物を採集し、それらがどんなものでどこから流れ着いたかを考えることをとおして、海・自然・人とのつながりに気付かせる。また、漂流物を使ったクラフト活動をおとして、それらを生かす工夫や環境問題に目を向けさせる。	11.15(日) (1日)	小学5・6年生	20	11
13	おおすみくん家 通学合宿	集団宿泊生活や生活体験活動を行いながら普段の学校生活を送ることを通して、望ましい生活習慣や学習習慣を身に付けるとともに、連帯感や協調性を育てる。	11.30(月)～12.12(土) 1.12(火)～ 3. 5(金) (10週)	小学4～6年生	各40	11
14	少年少女登山教室	登山を通して、人が自然と関わることの素晴らしさ、スポーツとしての登山の楽しさを味わわせる。	11.22(日)～23(祝・月) (1泊2日)	小学4年～中学生	15	18
15	おおすみくん家 スポーツキャンプ 【バスケットボール】	鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき、青少年の体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上やコミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。	2.20(土)～21(日) (1泊2日)	中学生の関係部活動部員及びその指導者	80	コロナ関連中止
16	自然体験活動上級指導者 (インストラクター) 養成 研修	青少年をはじめとする多くの人々に対し、自然体験活動等の指導・支援及び推進ができる指導者の資質・能力の向上を図る。	2.23(火)～26(日) (3泊4日)	18歳以上・一般	20	コロナ関連中止

(2) 生活・自立支援キャンプ事業（児童養護施設との連携事業）

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	募集 人数 (人)	参加者数 (人)
1	子ども生き生き体験学習	児童養護施設で生活する児童生徒を対象に自然体験及び生活体験の活動を通して、生活・自立を支援するとともに、児童生徒の基本的な生活習慣の確立を目指す。	8.27(木)～29(土) (2泊3日)	児童養護施設の児童生徒	20	コロナ関連中止

(3) 地域ぐるみで体験の風をおこそう運動推進事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	募集 人数 (人)	参加者数 (人)
1	体験の風をおこそう スタンプラリー	鹿児島・宮崎「体験の風をおこそう」運動の協力団体が実施する事業をスタンプラリーとして実施し、各協力団体の事業広報活動の充実と各地域における体験活動の推進を図る。	7月～12月	子ども・親・一般	100	111
2	子どもゆめ基金募集説明会 【宮崎会場】【鹿児島会場】	子どもゆめ基金の令和3（2021）年度申請に関する説明会を実施し、宮崎県及び鹿児島県の各地域における体験活動等を一層充実させ、子供の健全な育成の推進を図る。	宮 崎： 9.12(土) (1日) 鹿児島： 9.13(日) (1日)	申請予定団体	40 100	宮 崎：12 鹿児島：32
3	ばら祭りウォーキング大会	関係機関と連携し、ウォーキング活動を通して、「体験の風をおこそう」運動の普及啓発を図る。	11. 3(火) (1日)	子ども・親・一般	200	コロナ関連中止
4	家族で遊ぼう！～おおすみ くん家 大感謝祭～	子ども・親・一般の方々が当施設の自然体験や活動プログラムの体験を通して、体験活動の重要性を啓発し家族の絆を深めるとともに、子どもの豊かな情操を養う。	12. 5(土)～ 6(日) (1泊2日)	子ども・親・一般	35家族	34家族115

6 教育事業等の実施状況

体験の風をおこそう ファミリーキャンプ①

1 趣 旨 自然体験・生活体験等を通して、家族の絆を深めるとともに、子どもの豊かな情操を養う。

2 期 日 令和2年6月27日（土）～28日（日）1泊2日

3 参加対象 キャンプや海浜活動など自然体験に興味のある家族

4 募集定員 10家族40人程度

5 参 加 者 10家族40人

6 指 導 者 国立大隅青少年自然の家職員3人、施設ボランティア2人

7 日 程



6月27日（土）	6月28日（日）
14:30 受付	6:00 起床・洗面・着替え・テント撤収
15:00 出合いのつどい	7:00 朝食「カートンドッグ作り」
15:30 テント設営	8:30 新城海の家へ移動
16:30 野外炊飯「バーベキュー」	9:00 水辺遊び
19:00 家族の時間・自由交流	※ 波の影響でカヌー活動は中止
20:30 入浴	11:00 アンケート記入・解散
22:00 消灯・就寝	

8 事業運営上の配慮

- キャンプ当日は荒天が予想されたため、荒天時の活動内容や場所を事前に参加者へ伝え、日程がスムーズに進むようにした。
- 新型コロナウイルス感染防止対策として、活動時のマスク着用、手指の消毒の励行、ソーシャルディスタンスの確保を参加者に周知した。また、受付時に各家族に除菌シートと健康チェックシートを配布し、防止対策の協力を呼びかけた。

9 参加者の感想

- カヌー体験ができずに残念でしたが、雨の中でも様々な活動を親子で楽しくできました。
- バーベキューの時に子どもたちが協力してご飯を羽釜で炊いたことは、友達作りのきっかけになりました。
- 子どもに良い体験をさせることができました。おおすみくん家にまた来たいと思うきっかけになりました。

10 成果と課題（○成果 ●課題）

- 2日間とも荒天プログラムを実施した。参加者は海浜施設でのバーベキューやテント泊、カヌー体験ができなかったことを残念がっていたが、自然の家での活動を楽しんでいた。
- 新型コロナウイルス感染防止対策を周知していたため、参加者の対策意識も高く、適切に活動が行えた。
- 水辺遊びを当施設の新城海の家で実施したが、波の影響を緩和して磯観察や貝殻拾いなどができる場所を近隣で見つけていきたい。



体験の風をおこそう ファミリーキャンプ③

- 1 趣 旨 自然体験・生活体験等を通して、家族の絆を深めるとともに、子どもの豊かな情操を養う。
- 2 期 日 令和2年7月25日（土）～26日（日）1泊2日
- 3 参加対象 キャンプや海浜活動など自然体験に興味のある家族
- 4 募集定員 10家族40人程度
- 5 参 加 者 12家族38人
- 6 指 導 者 国立大隅青少年自然の家職員3人



7 日 程

7月25日（土）	7月26日（日）
14:30 受付	6:00 起床・洗面・着替え・テント撤収
15:00 出合いのつどい	7:00 朝食「カートンドッグ作り」
15:30 テント設営	8:30 スポーツクライミング・シャッフルボード カプラ等の室内活動
16:30 野外炊飯「バーベキュー」	※ 波の影響でカヌー活動は中止
19:00 家族の時間・自由交流	11:00 アンケート記入・解散
20:30 入浴	
22:00 消灯・就寝	

8 事業運営上の配慮

- 荒天によるカヌー体験中止の代替として、スポーツクライミングの他、輪投げやボウリング・カプラやジェンガなど室内で楽しめる活動を準備した。
- 新型コロナウイルス感染防止対策として、活動時のマスク着用、手指の消毒の励行、ソーシャルディスタンスの確保を参加者に周知した。また、受付時に各家族に除菌シートと健康チェックシートを配布し、防止対策の協力を呼びかけた。

9 参加者の感想

- 御飯づくりのときに子どもたちの方から積極的に手伝う姿を見られて、家とは違う環境だと成長するのだなと感じました。スポーツクライミングも初めての挑戦で、親子ともにとても楽しめました。先生方の説明が分かりやすく行動しやすかったです。また時間に余裕のあるプログラムで良かったです。
- 普段できないことを体験させてあげることができ孫も喜んでおりました。先生方のおかげでテントも張れ、おかまで御飯を炊き、炭にも火を入れることができました。楽しかったです。ありがとうございました。
- 天気が良い日に（ワンデイキャンプなど）今回できなかったことを挑戦してみたいので計画したいです。ありがとうございました。

10 成果と課題（○成果 ● 課題）

- 2日間とも荒天プログラムを実施した。参加者は海浜施設でのバーベキューやテント泊、カヌー体験ができなかったことを残念がっていたが、自然の家での活動を楽しんでいた。
- 新型コロナウイルス感染防止対策を周知していたため、参加者の対策意識も高く、適切に活動が行えた。
- 海浜での体験活動が実施できなかった。参加者は非常に楽しみにしていた様子がうかがえたので、実施時期の見直しや代替案の検討が必要である。



体験の風をおこそう ファミリーキャンプ④ ～家族で過ごすクリスマス～（有限会社森伊蔵酒造協賛事業）

1 趣 旨 自然体験・生活体験等を通して、家族の絆を深めるとともに、子どもの豊かな情操を養う。

2 期 日 令和2年12月19日（土）～20日（日）

3 参加対象 家族

4 参加者 10家族 37人

5 指導者 国立大隅青少年自然の家職員
ボランティア2人

6 日 程



12月19日（土）		12月20日（日）	
13:30	受付	6:00	起床・清掃
14:00	出合いのつどい	6:10	準備・荷物移動
14:45	【家族で過ごすクリスマス体験①】 自然散策・クラフト材料探し	7:00	野外調理準備
15:45	【家族で過ごすクリスマス体験②】 オーナメント作り・写真撮影	7:30	朝食
17:30	部屋移動・入浴	8:40	退所点検
18:00	夕食（レストラン）	9:00	移動
19:00	【家族で楽しむクリスマス体験③】 遊びリンピック・ビンゴ&抽選会	9:15	【家族で楽しむクリスマス体験④】 段ボールピザ、タンドリーチキン
20:30	就寝準備・自由	11:00	片付け
22:00	消灯・就寝	11:30	アンケート記入
		12:00	別れのつどい 解散



7 事業運営について

- クラフトの材料採取からオーナメント作成まで一連の活動を取り入れることで、自然に親しむことができるようにした。また、自然散策をしながら家族で一緒に楽しみ、協力して完成できるようなクリスマスオーナメント作成活動を計画することで、家族間の絆を深められるようにした。

8 参加者の感想

- コロナ禍での対応がよく考えられており、安心して活動できました。今後も是非参加させていただきたい。
- とてもすばらしい体験ができました。ありがとうございました。家族の絆も深まりました。

9 成果と課題（○ 成果 ● 課題）

- クリスマスのオーナメント作りや段ボールを利用したピザ作りと子供だけでなく大人も一緒に家族で楽しむ活動ができてよかった。
- 本事業に当選されてない家族が1組来られた。募集や当落の連絡の仕方を検討したい。



体験の風をおこそう ファミリーキャンプ⑤

1 趣 旨 自然体験・生活体験等を通して、家族の絆を深めるとともに、子供の豊かな情操を養う。

2 期 日 令和3年1月16日（土）～
17日（日）1泊2日

3 参加対象 自然体験活動に興味のある家族

4 募集定員 10家族40人程度

5 参加者 10家族35人

6 指導者 国立大隅青少年自然の家職員

7 日 程



【1日目】	【2日目】
13:30 受付(自然の家本館)	6:00 起床
14:00 出合いのつどい	7:30 朝食 ※ レストラン
14:30 火おこし道具作り・火おこし体験	8:40 退所点検
18:00 夕食 ※ レストラン	9:00 ダンボールピザ窯でピザ作り
19:00 ダンボールのピザ窯作り	11:30 別れのつどい
20:00 入浴	12:00 解散
22:00 就寝	

8 事業運営上の配慮

- 新型コロナウイルス感染防止対策として、各家族に除菌シート1袋（60枚入り）を配布し、参加者に適宜使用するよう呼びかけた。
- 余裕を持ったスケジュールを立て、時間が足りない場合は状況を見て活動を追加することとした（薪拾い、たき火）。

9 参加者の感想

- 進行もスムーズで、親の方が熱中してあっという間に時間が過ぎました。ありがとうございました。
- 色々イベントを企画してくださっているので母と子3人でも無理なく活動に挑戦でき、楽しめました。
- 自分たちではできない体験ができました。スタッフの皆様が親切に接してくださったのでとても楽しく過ごせました。
- 子供たちも大変満足していました。部屋も広かったのでコロナの心配もありませんでした。

10 成果と課題（○ 成果 ● 課題）

- 「火」を題材にしたシンプルな活動（薪を拾う、薪をくべる、眺める）でも、参加者の満足度は高かった様子であった。
- 親も子ども双方が一生懸命にならないと難しい「火おこし道具制作・体験」は、親子が協力するきっかけとなった。
- 火おこし、ピザ作りともに1家族1ブースの確保ができ、ゆっくり過ごすことができた。
- 自作した火おこし道具での火おこしが難しく、成功率が低かったため、より細かくポイントやコツを伝えるための時間の確保や体制づくりについて検討が必要である。



ボランティア養成研修

- 1 趣 旨 青少年教育施設の役割を理解するとともに、野外活動等の指導・支援ができるボランティア及び指導者の養成・確保を図る。
- 2 期 日 令和2年6月13日（土）～14日（日）1泊2日
- 3 対 象 者 高校生・大学生・一般（15歳以上、短大・専門学校生を含む）
- 4 募集定員 40人程度
- 5 参 加 者 10人（高校生9人、社会人1人）
- 6 指 導 者 鹿児島大学総合教育機構共通教育センター体育・健康教育部門准教授 福満 博隆 氏
垂水消防署員、国立大隅青少年自然の家職員、法人ボランティア1人

7 日 程

6月13日（土）	6月14日（日）
9:20 受付	6:00 起床・寝具整理・清掃
10:00 講義1「ボランティア活動の意義」	7:30 朝食
11:30 講義2「青少年教育施設の現状と運営」	8:30 新城海の家へ移動
12:30 昼食	9:00 実習2「自然体験活動の安全管理」（普通救命講習Ⅰ）
13:30 講義3「青少年教育における体験活動」	12:00 昼食
15:00 本館炊飯場へ移動	13:00 講義5「青少年教育施設におけるボランティア活動」
15:15 実習1「自然体験活動の技術」（野外調理）	14:15 閉講式・解散
19:45 講義4「青少年教育施設におけるボランティア活動」	
22:00 入浴・就寝	

8 事業運営上の配慮

- コロナウイルスの流行を踏まえ、研修期間中の感染対策等の協力依頼を参加者に事前の呼びかけを行った。
- 講義4では、質疑応答の時間を多く設けることで、参加者が自発的・積極的に発言できるよう配慮した。

9 参加者の感想

- ボランティア活動の意義を学んで、自分の地域だけでなく色々な地域のボランティア活動に多くの積極的に参加していきたいと思った。多くのことを学ぶことができて良かった。
- 宿泊を伴う体験型施設に対して、目的・目標等をどのように持っているのか知ることができた。
- ボランティア養成員としての自覚を持ち、KYTや指導上の留意点等、協力・声かけをしながらできた。
- 密が守られていない状況や、マスク未着用等感染対策がゆるい。マスク着用をよびかける事も少なかった。

10 成果と課題（○ 成果 ● 課題）

- コロナ流行下ではあったが、体調不良者も出ることなく滞りなく事業を実施でき、結果的に参加者全員からボランティア登録の希望があった。
- カリキュラム内で実習を多く組めるよう検討が必要である。
- 改めてコロナ感染防止対策を検討し、今後の事業に活かしていく必要がある。



おおすみくん家に遊びに来ませんか！

- 1 趣 旨 不登校及び不登校傾向にある小・中・高校生等が体験活動や自然との触れ合い、グループでのレクリエーション活動等を通して、野外活動の楽しさや人との触れ合いの大切さを知る。
- 2 期 日 令和2年6月20日（土）、10月17日（土）、11月21日（土）
令和3年1月23日（土）、3月6日（土）
年6回実施 ※ 2回目予定の9月5日は中止（台風接近のため）
- 3 対 象 者 小・中・高校生（不登校及び不登校傾向の児童生徒）
保護者
- 4 募集定員 20人程度
- 5 参 加 者 1回目：18人、3回目：15人、4回目：21人、5回目11人、
6回目：19人
- 6 指 導 者 国立大隅青少年自然の家職員

7 日程と主な活動

回	実施日	時間	活動内容
①	6月20日（土）	10：00～12：00	カヌー体験、海釣り体験
③	10月17日（土）		どんぐりクラフト、革細工、ブーメラン、スポーツクライミング
④	11月21日（土）		ピザ作り、棒パン作り
⑤	1月23日（土）		スポーツクライミング、藍染め
⑥	3月 6日（土）		火おこし体験、インラインスケート

8 事業運営上の配慮

- 屋内で過ごしている子ども達が外に出て、楽しめるような内容を計画した。
- 新型コロナウイルス感染防止に対応した内容を企画した。

9 参加者の感想

- カヌーに生まれて初めて乗った。最初は少し怖かったけど、後半はとても楽しく、気持ちよかった。
また、いろいろな人と親しむことができた。
- スポーツクライミングは何回か挑戦しているうちに上まで上れるようになった。また挑戦したい。
- 自分で起こした火で焼いたお芋がとてもおいしかった。

10 成果と課題（○ 成果 ● 課題）

- 参加した児童生徒のほとんどが、明るく笑顔で楽しみながら活動することができた。
- スポーツクライミングは人気があり、何度もチャレンジしていた。
- 事前に保護者や引率者に児童生徒の現状を聞くことで、接し方の注意点を確認することができた。
- 事業についてまだ内容を知らない教育関係者もいる。周知の方法を検討して行く必要がある。

教員免許状更新講習

- 1 趣 旨 教員が体験活動の意義について理解するとともに、児童生徒の集団宿泊学習等を効果的に実施するための基本的な体験活動の指導技術を身に付ける。また、学習指導要領における体験活動の取扱いを理解し、教育活動における体験活動の取入れ方を講義や実習を通して修得する。
- 2 期 日 令和2年7月27日（月）～29日（水）2泊3日
- 3 対 象 者 主に小・中学校の教員及び同免許保持者
- 4 募集定員 40人
- 5 参 加 者 24人
- 6 指 導 者 人財科学研究所代表 工藤 智徳 氏
鹿屋市教育委員会教育長 中野 健作 氏
鹿児島県立博物館学芸主事 鈴木 淳 氏
鹿児島大学准教授 福満 博隆 氏
国立大隅青少年自然の家職員

7 日 程

7月 27日 (月)	13:00 13:30	14:00	17:30 18:00 19:00	20:30 22:00
	受 付	開 講 式 オリエンテーション	【実習・講義】 「体験活動を通じた 人間関係づくり」 休 憩 夕 食	【講義】 「今日的教育課題 とその対応」 入 浴 就 寝
7月 28日 (火)	9:00	14:00 15:00	18:30 19:00	20:30 22:00
朝 食	【実習・講義】 「自然体験活動の方法Ⅰ」 (野外活動) ※ 途中、昼食有り	休 憩	【実習・講義】 「自然体験活動の方法Ⅱ」 (野外調理) ※ 夕食を含む。	【実習・講義】 「星座観察と 指導方法」 入 浴 就 寝
7月 29日 (水)	9:00	12:30 13:30	15:00 15:10	
朝 食	【講義】 「体験活動の意義と学習指導要領」 「体験活動における安全管理」 ※ 途中、休息有り	昼 食・休 憩	【評価】 「履修認定試験」 閉 講 式 解 散	

8 事業運営上の配慮

- (1) 選択領域18時間分をまとめて受講できるように、日程を夏季休業中の2泊3日で設定した。
- (2) 実習の時間を多く設定することで、指導法の実践と技能の習得に重点をおいた。
- (3) 新型コロナウイルス感染防止対策として、活動時のマスク着用、手指の消毒の励行などを参加者に周知した。

9 参加者の感想

- 体験活動に対する心構えが大きく変わりました。打ち合わせの大切さ、ねらいを共有する大切さを知りました。
- 自然に親しみながら多くの先生方と知り合えて有意義な講習になりました。

10 成果と課題（○ 成果 ● 課題）

- 体験活動の意義やねらいを集中的に学べ、他校種の参加者の交流も深めることができたことは有意義であった。
- 今後も新型コロナウイルス感染防止対策に伴う「新しい生活様式」が続くことを考えると、募集人員を30人にして、3密を避ける講習にしていけることを検討したい。



海からのメッセージ ～ 仲間とつくる 最高の夏～

- 1 趣 旨 鹿児島湾（錦江湾）を舞台に、海の素晴らしさや厳しさを体験することにより、海の良さを知り、「生きる力」を育む。また、長期冒険型活動を通して心に悩みをもつ青少年の自立を支援する。
- 2 期 日 令和2年8月9日（日）～15日（土） 6泊7日
- 3 参加対象 小学5・6年生、中学生、高校生（心に悩みをもつ児童・生徒を含む。）
- 4 募集定員 24人
- 5 参加者 24人（小学生16人・中学生7人・高校生1人）
- 6 指導者 外部指導員4人 国立大隅青少年自然の家7人 ボランティア8人
- 7 日 程

期日	移動先・内容等	宿泊場所	移動距離
8月9日	新城海の家周辺（カヌーの練習）	自然の家	5 km
8月10日	自然の家本館（交流活動、スポーツ活動）		10 km
8月11日	宮脇公園周辺（カヌーの練習、カヌー活動）	新城海の家	15 km
8月12日	海洋スポーツセンター周辺（海洋スポーツ体験）		10km
8月13日	荒平天神周辺（カヌー活動、お参り）		15 km
8月14日	海潟さくら公園周辺（カヌー活動、遠距離漕破）		5km
8月15日	新城海の家周辺（振り返り、ネクストチャレンジ宣言）		

8 事業の企画・運営

- (1) 昨年度までは複数の宿泊地を移動していたこともあり、食事の準備等を参加者以外が実施していた。今年度は宿泊場所を新城海の家に固定し、かつ移動距離時間を調整することで、参加者自身に食事の準備を始めとした生活体験を行う時間を多く取り入れた。
- (2) 感染症対策として、テント宿泊時の密を避けるため、一人用テントでの宿泊とした。
- (3) 申込方法を往復はがきによる申込から、インターネットによる申込に変更することで、申込者の利便性の向上を図った。
- (4) 職員及び外部指導員による、全ルートの実地踏査を実施し、危険箇所の確認を行った。
- (5) 参加者のカヌー活動中は、監視艇及び救助艇の計3艇を常に常同・監視することで、参加者の安全面に十分配慮した。
- (6) 鹿屋市、垂水市、関係機関（海上保安部、漁業協同組合、警察署、消防署、病院）に事業実施における情報共有を行うことで、緊急時の対応の事前準備を行った。

9 事業の実際

1日目は陸上でカヌーを漕ぐ練習を行った。天候不良により、実際にカヌーに乗った練習はできなかったが、その中でも熱中症を考慮し、海に入って練習を行えた点は良かった。

2日目も天候不良により、本館で室内での活動を行った。その中で、遊びリンピックやスポーツクライミングを行うことで、班での交流が増え、参加者の緊張を解かせることができた。

3日目からは海でのカヌー活動を行った。1, 2日目の天候不良も考慮し、行程を変更して、海でのカヌーの練習を行ってから宮脇公園への往復のカヌー活動を実施した。定期的に休憩・水分補給をとらせるなど熱中症対策を行った。

4日目は、連携先である鹿屋体育大学の海洋スポーツセンターでの海上スポーツ体験として、スタンドアップパドルを行った。また、磯観察ではさまざまな生き物を見つけ、活動に熱中していた。海洋スポーツセンターでの体験活動にしたことで、カヌーが苦手な参加者も海の良さ・素晴らしさをより感じる事ができた有意義なプログラムとなった。

5日目は、荒平天神までの往復のカヌー活動を行った。行程が長距離であったことから、途中で船酔いをする参加者が見られた。体力的に厳しい中でも互いに声をかけながら、活動に取り組んでいた。また、歌を歌いながら楽しく活動に取り組む参加者も見られた。

6日目は、海潟さくら公園までの往復のカヌー活動を行った。最長距離の行程であったこともあり、途中で痛みや疲労により、救助艇でえい航する場面も見られたが、参加者の最後まで諦めない姿、励まし合う姿が見られた。その結果、参加者24人全員が最長距離である16kmを漕破することができた。

7日目は、これまでの活動を振り返り、「これから自分がチャレンジすること」を考えさせ、グループ内で発表させる活動を行った。参加者が熱意をもって、事業で感じたこと、まじめに考えたこと、それぞれの目標を発表する姿が見られた。



10 アンケート結果（参加者 I K Rアンケート）

「生きる力」の変容（得点範囲：28～168点）

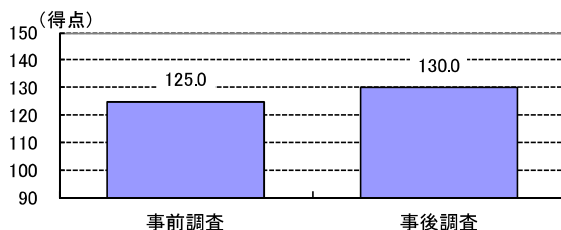


図1. 「生きる力」の平均値の推移

（事前－事後）

- ・事前から事後にかけて 5.0ポイント向上
- ・その向上に有意差は見られなかったが、以下カテゴリ毎に、ポイントの上昇が見られた設問について示す。

「心理的社会的能力」の変容（得点範囲：14～84点）

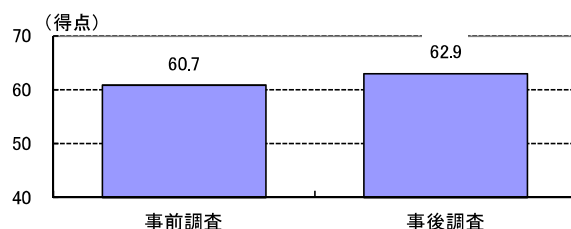


図2. 「心理的社会的能力」の平均値の推移

（事前－事後）

- ・事前から事後にかけて 2.2ポイント向上
- ・その向上に有意差は見られなかったが、「3. 先を見通して、自分で計画が立てられる」「17. 自分で問題点や課題を見つけることができる」「15. 小さな失敗をおそれない」など「非依存・視野・判断」の項目にて、ポイントの上昇が見られた。

「徳育的能力」の変容（得点範囲：8～48点）

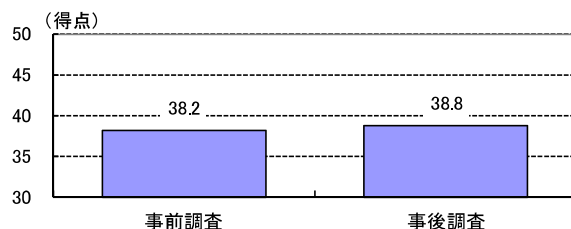


図3. 「徳育的能力」の平均値の推移

（事前－事後）

- ・事前から事後にかけて 0.6ポイント向上
- ・その向上に有意差は見られなかったが、「6. 花や風景などの美しいものに、感動できる」など「自然への関心」の項目にて、ポイントの上昇が見られた。

「身体的能力」の変容（得点範囲：6～36点）

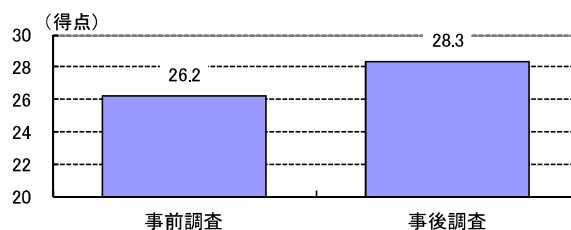


図4. 「身体的能力」の平均値の推移

（事前－事後）

- ・事前から事後にかけて 2.1ポイント向上
- ・その向上に有意差が見られた。その中でも「13. 早寝早起きである」「24. 洗濯機がなくても、手で洗濯できる」など「日常的行動力・野外技能・生活」の項目にて、ポイントの上昇が見られた。

「身体的能力」の変容に有意差が見られた。これは、日常生活に必要な洗濯・食事などの活動を参加者自身で毎日実施したことにより、参加者の日常的行動力や野外技能・生活技能が向上したと考えられる。また、「心理的社会的能力」の項目においても、本事業の活動の大半を占める海での長距離のカヌー活動により、挑戦する心が養われたと考えられる。

11 参加者の事業後の感想

- いろいろな料理の仕方を覚えたので家族に作ってあげたい。
- 僕はこれから親の手伝いをし、困っている友達がいたら自分から積極的に声をかけてあげようと思いました。
- 毎日体力づくりをする（カヌーを漕いでいて、体力が無いことを思い知らされた）。
- 皿洗いは毎朝やる。すぐにカッとなって怒らない。人のことより自分のことからする。
- 海洋スポーツセンターでサップを初めて経験しました。初めて知ることがたくさんあって、すごく楽しい体験ができました。
- 今回の目標は「気配り、目配りができるようになる」だった。みんなから見てどうかかわからないけど、私なりに頑張れたと思うから1週間は満足できるものになった
- 今年が初めてで不安だったけど、やさしい仲間がいたので少し心強かった。
- みんなとのお別れはさびしいけど、少しだけ家の温かみを感じることができた7日間だった。
- この班は静かだったり騒がしかったり、いろいろとあったけどこの班で良かった。またこの班で何かやりたい。
- 最初は男女別に行動していたけど、この7日間で話をしたり、活動をして男子女子仲良くなれた。本当に来てよかった。
- この海メセで仲間と協力することが大切だと気付いた。
- いろいろなことを学んだ。例えば1つ辛いことに挑戦して乗り越えると、すごく達成感があり、チャレンジして良かったと思うことです。
- 2日連続でダウンしたけど、班のみんなが手伝ってくれたりしたから、1週間頑張れた気がする。本当にこの班で良かったと思った。
- 班長として頑張ったつもりだけどうまいかない日もあった。でも班の子たちが協力してくれてとてもうれしかった。

12 成果と課題（○ 成果 ● 課題）

- 今年度は、カヌーによる挑戦だけでなく、食事の準備・洗濯等の生活体験を取り入れた結果、参加者の野外技能・生活技能の向上に繋がった。
- 感染症対策として、テント泊に一人用テントを使用したことが、保護者の参加に対する不安軽減に繋がった。
- 宿泊拠点を新城海の家に固定することで、食事・洗濯等の実施における運営側の負担が軽減され、参加者の体調管理や安全対策を十分に行うことができた。
- 海浜施設の設備等が経年劣化により保守・メンテナンスが困難になっているため、事業実施における設備・物品の確保に新しい方法を検討する必要がある。
- 夏季における長期宿泊事業の開催は、台風等の発生に事業内容が大きく左右される。また、夏季は研修支援での利用も多くなる時期であるが、教育事業に人員を割くことで研修支援の受け入れ体制に影響が少なからずある。これらの理由から、実施時期・開催形態の見直しを進める余地がある。
- 感染症対策をさらに進める場合、野外調理の活動形態においても検討が必要である。

リフレッシュキャンプ

1 趣 旨 7月の九州豪雨に遭われた大隅地区の家庭の小・中学校の子どもたちに対し、境遇を同じくする子どもたちとの交流や自然体験活動を通して、日々の生活を送るための活力を養う一助とする。

2 期 日 令和2年10月11日（日）

3 参加対象 災害があった大隅地区の小、中学生

4 募集定員 20人程度

5 参加者 9人（小学生3人、中学生6人）

6 指導者 国立大隅青少年自然の家職員3人

7 日 程

9:40	受 付
10:00	出合いのつどい、日程説明、アイスブレイク
10:30	活動1（野外炊飯）・段ボールピザ作り
	昼 食
14:30	活動2（野外活動）・マウンテンバイク ・フライングディスクゴルフ ・インラインスケート
15:50	別れのつどい
16:00	解散



8 事業運営上の配慮

- 新型コロナウイルス感染防止対策として、活動ごとに「手洗い・うがいの時間」を設定するとともに、マスク着用、手指の消毒の励行、ソーシャルディスタンスの確保を参加者に周知した。
- 水害で自宅が浸水した児童の参加を予想して海浜活動（水の活動）を外した。
- 大隅地区の児童生徒に限定していたが熊本南部で被害を受けた児童も受け入れた。
- 防災教育の観点から自宅でも比較的簡単にできる調理メニューを取り入れた。

9 参加者の感想

- マウンテンバイクに乗って自然が身近に感じられた。
- 活動していくうちにどんどん楽しくなってきた。いい経験ができた。
- 熊本から来て楽しかった。

10 成果と課題（○成果 ●課題）

- 水害当時、小学校に避難したり、2階だけでの生活を余儀なくされている児童もいたが、気持ちよい晴天にも恵まれそれぞれがリフレッシュできた。
- 少人数だったので、野外活動の希望変更や野外調理での小学生への対応などきめ細やかな対応ができた。
- 参加者が男子が小学生、女子が中学生だったので、意図的に交流を深める手立てを講じる必要があった。



おおすみくん家 キッズたんけんたい①

- 1 趣 旨 小学校低学年の子どもたちが親元を離れて共同生活や自然体験活動を行い、仲間と関わったり、協力したりする活動を通して、自立心や自尊感情を育てる。
- 2 期 日 令和2年9月21日（月・祝）～22日（火・祝）1泊2日
- 3 参加対象 小学1・2年生
- 4 募集定員 30人程度
- 5 参加者 30人
- 6 指導者 国立大隅青少年自然の家職員3人、ボランティア7人
- 7 日 程



9月21日（月・祝）	9月22日（火・祝）
10:00 受付・出会いのつどい	6:00 起床・洗面・着替え・テント撤収
11:10 ふれあいタイム	8:30 朝食
12:20 昼食	8:45 野外炊飯（昼食）
13:25 テントをたてよう！	・棒パン
14:40 たんけんにいこう！	・焼きそば
18:00 夕食・入浴	・手作りバター
20:00 あそびリンピック	13:20 アンケート記入・別れのつどい
22:00 消灯・就寝	13:50 解散

8 事業運営上の配慮

- 新型コロナウイルス感染防止対策として、活動ごとに「手洗い・うがいの時間」を設定するとともに、活動時のマスク着用、手指の消毒の励行、ソーシャルディスタンスの確保を参加者に周知した。
また受付時、班付きボランティアに除菌シートを配布して参加者及び活動場所の消毒を適時実施した。
- 小学校低学年対象ということで子供達が意欲的に取り組めるような活動や、友達と協力する活動、自然体験活動をプログラムに取り入れ、時間的に余裕のあるスケジュールにした。
- 生活習慣の意識が高まるよう、自分のことは自分でさせるとともに、自然体験、野外炊飯、生活体験（テント設営）、遊び（あそびリンピック）等、多岐にわたるプログラムを実施した。

9 参加者の感想

- テントに泊まったことが無かったのでとても楽しかった。
- 山の中に入ってドングリや松ぼっくりを集めながら探検したのがとても楽しかった。
- 今までにやったことのない、いろいろな「たんけん」ができて良かった。最初は知らなかった人たちも時間が経つにつれて友達になれたので良かった。

10 成果と課題（○成果 ●課題）

- 親元を離れた宿泊を伴う生活で不安や緊張を抱える中、各種体験活動や共同生活を体験することで基本的な生活習慣を身に付けるきっかけになり、様々なことへ自信が付いた子が増えた。
- 新型コロナウイルス感染防止対策を意識した手洗い、うがいの徹底、ソーシャルディスタンスを確保した活動が行えた。
- 班長を中心に整列したり、仕事を各係で分担したりと、役割を意識した活動があまりできなかった。



おおすみくん家 キッズたんけんたい②

1 趣 旨 小学校中学年の子どもたちが親元を離れて共同生活や自然体験活動を行い、仲間と関わったり、協力したりする活動を通して、自立心や自尊感情を育てる。

2 期 日 令和2年10月31日（土）～11月1日（日）1泊2日

3 参加対象 小学3・4年生

4 募集定員 30人程度

5 参加者 29人

6 指導者 国立大隅青少年自然の家職員3人、ボランティア5人



7 日 程

10月31日（土）	11月1日（日）
10:00 受付・出会いのつどい	6:00 起床・洗面・着替え・テント撤収
11:10 ふれあいタイム	7:30 朝食
12:20 昼食	8:45 野外炊飯（昼食）
13:25 たんけんにいこう！	・棒パン
15:40 テントをたてよう！	・焼きそば
16:40 遊びリンピック	・手作りバター
18:00 夕食・入浴	13:00 アンケート記入・別れのつどい
20:00 遊びリンピック	13:50 解散
22:00 消灯・就寝	

8 事業運営上の配慮

- 新型コロナウイルス感染防止対策として、活動ごとに「手洗い・うがいの時間」を設定するとともに、活動時のマスク着用、手指の消毒の励行、ソーシャルディスタンスの確保を参加者に周知した。
また受付時、班付きボランティアに除菌シートを配布して参加者及び活動場所の消毒を適時実施した。
- 小学校中学年対象ということで児童が意欲的に取り組める活動や、友だちと協力する活動、自然体験活動をプログラムに取り入れ、時間的に余裕のあるスケジュールにした。
- 生活習慣の意識が高まるよう、自分のことは自分でさせるとともに、自然体験、野外炊飯、生活体験（テント設営）、遊び（あそびリンピック）等、多岐にわたるプログラムを実施した。

9 参加者の感想

- パンや焼きそばを作って焼くのが楽しかった。
- テントを立てたり、たたんだりするのが難しかったけど頑張れた。
- 遊びリンピックやいろいろなたんけんあってとても楽しかったです。

10 成果と課題（○成果 ●課題）

- 新型コロナウイルス感染防止対策を意識した手洗い、うがいの徹底、ソーシャルディスタンスを確保した活動が行えた。
- 「自分のことは自分で」という目標の下、各自が率先して行動でき計画よりスムーズに進めることができた。



おおすみくん家 漂流物たんけん隊 ～漂流物から見えてくる、海・自然・人とのつながり～

- 1 趣 旨 錦江湾内の漂流物を採集し、それらがどんなものでどこから流れ着いたかを考えることをとおして、海・自然・人とのつながりに気付かせる。また、漂流物を使ったクラフト活動をとおして、それらを生かす工夫や環境問題に目を向けさせる。

2 期 日 令和2年11月15日（日）

3 参加対象 小学5・6年生

4 募集定員 20人

5 参加人数 11人



6 指 導 者 環境アート団体「色響」代表 芳田聡子 氏 国立大隅青少年自然の家職員2人

7 日 程

時刻	活動内容
9:30	受付
10:00	開会式・オリエンテーション
	活動1：海辺の漂流物をさがそう
12:00	① 漂流物に興味をもとう ② 気になる漂流物をさがそう
12:30	昼食
	活動2：漂流物のルーツをさぐろう
14:00	① 漂流物を紹介しよう ② 漂流物を分類しよう ③ 漂流物はどこから来たのかを考えよう
14:30	活動3：漂流物で素敵な作品を作ろう アンケート記入・閉会式・解散

8 事業運営上の配慮

- 漂流物の採集ではゴム付き軍手やトングを配布し、生き物や死骸を見つけたら職員に知らせる、ガラス片は細菌感染の危険があるのでトングを使うなど、安全指導を徹底した。
- 専門的知見を有する外部指導者と協議し、本事業の活動内容について互いに検討や精査を行った。

9 参加者の感想

- 漂流物でもそれを生かして工作ができることを学びました。
- 漂流物さがしでは、たくさん漂流物が落ちていたことや多くの種類があることにびっくりしました。

10 成果と課題（○成果 ●課題）

- 漂流物を「海の物／陸の物」「人工物／自然物」の4つに分類する活動をとおして、漂流物には陸の物や人工物が多いことに気づくとともに、それらがどのように海へ流れついたかを知ることができた。
- 採集した漂流物の分類は、砂浜で約1時間実施したが、暑さでバテ気味の参加者が多かった。天候のよい日中での活動は管理棟や室内など日よけのある場所が望ましい。



おおすみくん家 通学合宿

1 趣 旨 集団宿泊生活や生活体験活動を行いながら、普段の学校生活を送ることを通して、望ましい生活習慣や学習習慣を身に付けるとともに、連帯感や協調性を育てる。

2 実施期間 令和2年12月 9日（水）～12日（土）
令和3年 1月12日（火）～15日（金）
2月 8日（月）～26日（金）3週
※ 学校ごとに実施期間を指定する。

3 参加対象 鹿屋市内及び垂水市内の小学4～6年生児童
※ 自然の家から学校までの所要時間がおおむね30分以内の学校

4 募集定員 30人

5 参 加 者

【学校別参加者数】

学年 学校名	4 年			5 年			6 年			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
寿小学校	3	2	5	5	8	13	5	4	9	13	14	27
花岡小学校	1	3	4	1	0	1	0	0	0	2	3	5
笠野原小学校	2	4	6	0	5	5	0	0	0	2	9	11
西原台小学校	5	7	12	3	1	4	2	4	6	10	12	22
鹿屋小学校	2	4	6	2	1	3	0	0	0	4	5	9
西原小学校	9	1	10	2	2	4	0	4	4	11	7	18
下名小学校	5	0	5	0	5	5	0	0	0	5	5	10
田崎小学校	0	7	7	0	6	6	3	0	3	3	13	16
計	27	28	55	13	28	41	10	12	22	50	68	118

【参加日数別参加者数】

学年 日数	4 年			5 年			6 年			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
2泊3日	18	15	33	10	15	25	5	5	10	33	35	68
3泊4日	9	12	21	2	8	10	4	5	9	15	25	40
4泊5日	0	1	1	1	5	6	1	2	3	2	8	10
計	27	28	55	13	28	41	10	12	22	50	68	118

※ 延べ参加者数 414人

6 指 導 者 国立大隅青少年自然の家職員、研修指導員5人

7 基本的な生活時間

通学合宿開始日	通学合宿期間中	通学合宿最終日
	6:00 起床・身支度・清掃 7:00 朝食 7:30 バスで登校 8:00 学校生活	6:00 起床・身支度・清掃 7:00 朝食 7:30 バスで登校 8:00 学校生活
17:00 受付 17:15 オリエンテーション	16:15 バスで下校 ころ ※ 学校の校時表に従う 17:00 学習・洗濯等	16:15 学校から帰宅 ころ
18:00 夕食 18:30 宿泊室へ移動 19:00 学習等 20:30 入浴 21:30 翌日の準備 22:00 就寝	18:00 夕食 19:00 学習・読書・交流 20:30 入浴 21:30 翌日の準備 22:00 就寝	

8 事業運営上の配慮

- (1) 基本的には1校で実施するが、隣接校や小規模校は合同で実施した。
- (2) 子供たちの学習指導や生活指導に目が行き届くよう、担当職員1人と研修指導員1人の2人体制とした。
- (3) 合宿中は、起床時や就寝時の健康状況や食事の様子等についてチェックし、子供たち一人一人の健康状況の把握に努めた。
- (4) 対象となる学校と連絡を取り合い、配慮が必要な子供の情報を関係職員と共有した。
- (5) 新型コロナウイルス感染防止対策として、募集人数を例年の40人から30人に減らし、学習室や宿泊室での密な状態を軽減した。

9 参加者の感想

- 規則正しい生活は苦手だったけど、やってみると意外に簡単だと思った。家でも実行したい。
- 就寝準備するときに違う学年の子と協力してできた。仲のいい子ともしっかり仲良くできた。
- 宿題などを進んで取り組むことができた。家でも規則正しい生活を続けていきたい。

10 成果と課題（○ 成果 ● 課題）

- 子供たちから、「早寝早起きができるようになった」「規則正しい生活を自宅でも行いたい」「友だちと協力できた」といった感想が多く寄せられた。
- 異年齢での共同生活であったことから、上級生（5・6年生）が率先して下級生をリードして活動を行っていた。
- 新型コロナウイルス感染防止を踏まえた状況で実施する際、募集対象となる学校数、人数、学年等について、変更の余地がないか検討していきたい。



- 趣 旨 登山を通して、人が自然と関わることの素晴らしさ、スポーツとしての登山の楽しさを味わわせる。
- 期 日 令和2年11月22日（日）～23日（月・祝）1泊2日
- 参加対象 小学4年生～中学2年生
- 募集定員 15人程度
- 参加者 18人
- 指導者 鹿児島県山岳・スポーツクライミング連盟12人
- 日 程



11月22日（日）	11月23日（月・祝）
10:00 受付	6:00 起床・洗面・着替え・清掃
10:30 開講式	7:30 朝食
11:00 講話「大地と自然と今を学ぶ」	8:30 登山口へ出発
13:00 講話「大地と自然と今を学ぶ2」	9:15 登山開始
14:30 スポーツクライミング	11:25 昼食
17:00 入浴	12:00 下山開始
18:00 夕食	13:30 登山口着
19:00 登山準備	14:30 自然の家着・閉講式
21:00 就寝	15:00 解散

- 事業運営上の配慮
 - 鹿児島県山岳・スポーツクライミング連盟との共催事業として行い、自然と親しむとともに登山の楽しさを味わわせるために講座と実技及び登山を実施した。
- 参加者の感想
 - とても良い経験ができ、嬉しかったです。将来も役に立つのでこれからもいろいろなことに挑戦してみたいです。スタッフさんの指導もわかりやすかったし、良い経験ができました。今、コロナで大変なことになっていますが、来年、できたらもう1回やってみたいです。途中であきらめようとしたのですが、みんながこの登山を盛り上げてくれて元気ができました。スタッフさんそれに友達になったみなさんにとても感謝しています。ありがとうございました。
 - 夏休みに「海からのメッセージ」に参加してとても楽しかったので今回の登山教室にも参加してみました。とても楽しかったのでこのようなイベントに他にも行ってみたいです。
- 成果と課題（○成果 ● 課題）
 - 天候にも恵まれ、事故及び怪我もなく全員が登頂・下山をすることができ、達成感を口にする参加者が多数いた。
 - 「たくさん友達ができた」「来年もまた参加したい」という充実した2日間を過ごした様子がうかがえる感想が多く見られた。
 - 移動時にバスに酔ってしまった参加者が数名いたので、酔いやすい参加者への配慮方法を考えておく必要がある。



家族で遊ぼう！～おおすみくん家 大感謝祭～

- 1 趣 旨 子ども・親・一般の方々が当施設の自然体験や活動プログラムの体験を通して、体験活動の重要性を啓発し家族の絆を深めるとともに、子どもの豊かな情操を養う。
- 2 期 日 令和2年12月5日（土）～12月6日（日）
- 3 対 象 者 家族
- 4 募集定員 35家族
- 5 参 加 者 宿泊者：34家族（115人）
- 6 指 導 者 スポーツライミング（江口 智昭 氏 他3人）
七宝焼き（神前 ひろ子 氏）
国立大隅青少年自然の家職員
ボランティア（9人）
- 7 日程と主な活動



12月5日（土）		12月6日（日）	
13:00	受付	6:15	起床 ※ テント泊者はテント撤収
13:10	開会行事	7:00	朝食
13:45	クラフト活動 ・ ジェルキャンドル ・ クリスマスリース ・ まつぼっくりツリー ・ どんぐりクラフト	8:40	各プログラム参加 ・ スポーツライミング（スラックライン） ・ 七宝焼き ・ 館内ビンゴ
16:30	入浴（～21:00） ※ テント泊者はテント設営	12:00	昼食
17:45	夕食	13:30	各プログラム参加 ・ スポーツライミング（スラックライン） ・ 七宝焼き ・ おおすみくん家ビンゴ
19:30	ナイトプログラム ・ スライム ・ スローグライダー ・ 読み聞かせ ・ 星座早見缶 ・ 天体観測 ・ プラホビー	15:10	閉会行事 ・ 抽選会
21:30	就寝	15:30	解散
22:00	消灯		

8 事業運営について

多くの家族に当施設や体験活動の重要性を知っていただくため、体験活動やクラフト活動を準備し、家族で楽しめる内容に心がけた。

- (1) スポーツ系、クラフト系、自然系と、1つの領域に偏ることなく充実したプログラムを提供した。
- (2) 光るスライムやレジンプラホビー、様々な形のスローグライダーなど、普段体験できないプログラムを提するなど、充実させた内容を実施した。
- (3) クリスマスリース作り、ジェルキャンドル作り、読み聞かせコーナーの開設、コミュニティールームにおける遊具を配置と、幼児から大人まで楽しめるようにした。

9 成果と課題（○ 成果 ● 課題）

- 様々なプログラムに参加者が家族と協力して取り組む姿が見受けられた。
- コロナ禍ではあるが、家族で活動する場の提供が行えた。
- レストランの特別夕食メニューは、参加者が大変喜んでいて、レストランとの連携を大事にすることで、参加者の満足度も高まった。
- 入所前の検温は報告していただいたが、入所時の非接触型体温計による検温を実施すべきであった。
- 七宝焼きにおいて、道具の数の関係から、2家族が1つの道具を使用する場面を作ってしまった。

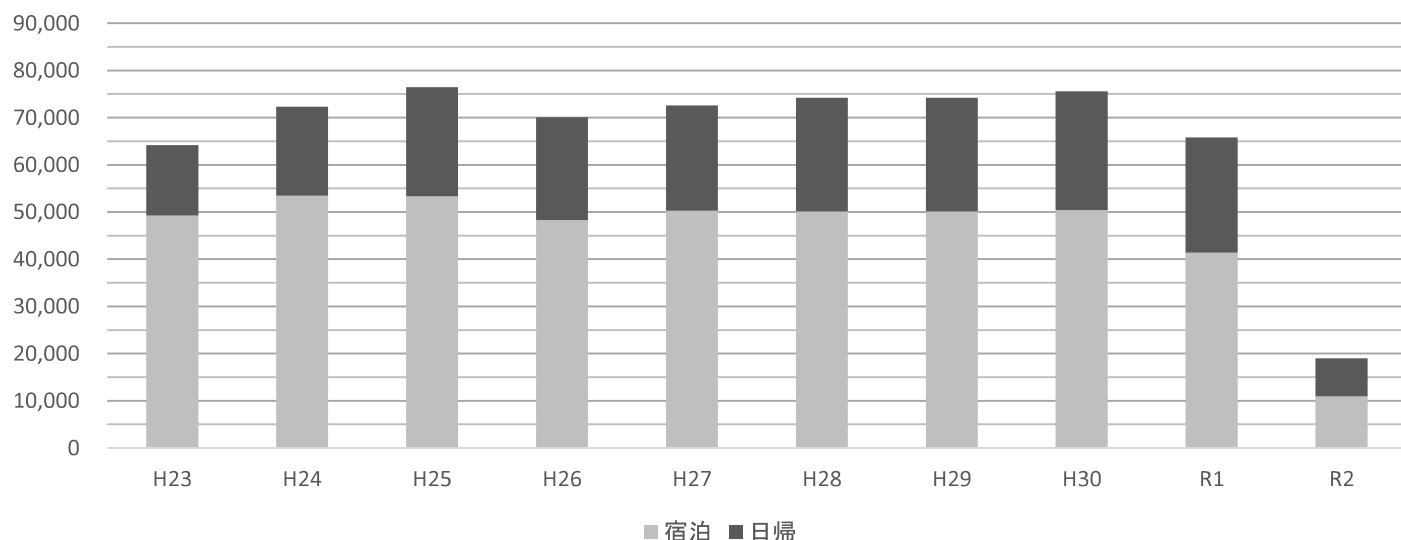


7 令和2年度利用状況(令和3年4月1日現在)

(1) 総利用者数の推移

年度		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
団体数	宿泊	598	540	536	531	548	611	565	593	492	171
	日帰	661	649	583	532	531	444	528	568	418	370
	計	1,259	1,189	1,119	1,063	1,079	1,055	1,093	1,161	910	541
利用者数	宿泊	49,222	53,485	53,344	48,331	50,291	50,168	49,207	50,376	41,387	10,892
	日帰	14,952	18,853	23,099	21,717	22,317	24,075	25,492	25,175	24,425	8,076
	計	64,174	72,338	76,443	70,048	72,608	74,243	74,699	75,551	65,812	18,968

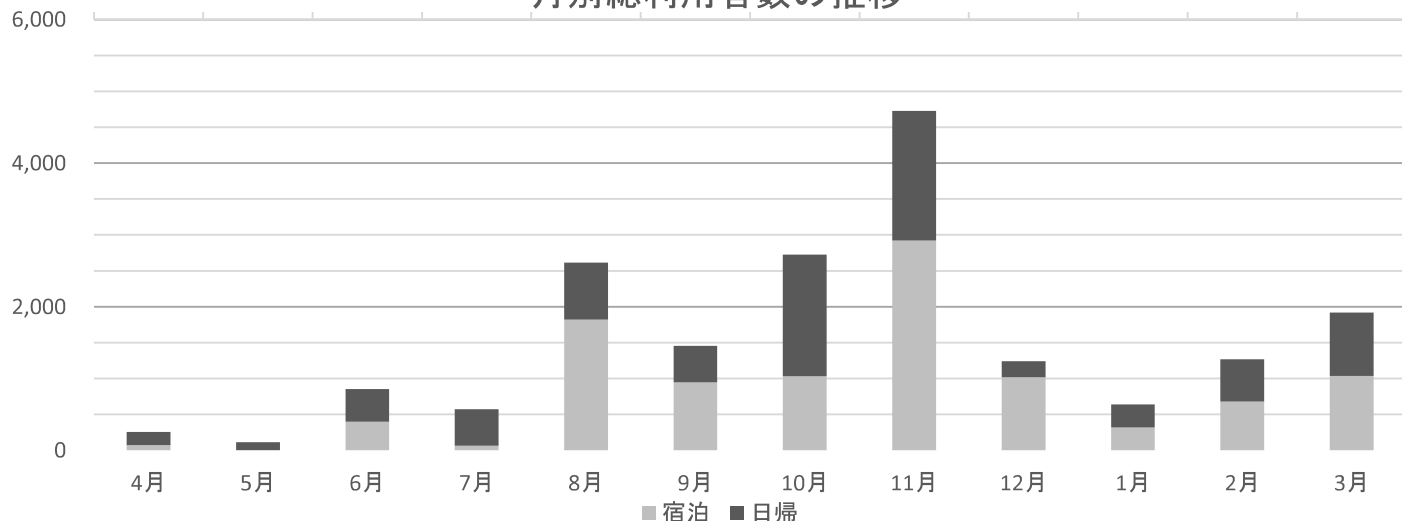
利用者総数の推移



(2) 月別総利用者数の推移【令和2年度】

年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
団体数	宿泊	3	0	10	18	28	20	17	34	11	6	5	19	492
	日帰	9	17	39	31	41	26	50	41	18	31	38	29	418
	計	12	17	49	49	69	46	67	75	29	37	43	48	910
利用者数	宿泊	73	0	399	65	1,821	948	1,032	2,921	1,018	318	677	1,034	41,387
	日帰	181	113	454	506	794	509	1,695	1,806	223	320	590	885	24,425
	計	254	113	853	571	2,615	1,457	2,727	4,727	1,241	638	1,267	1,919	18,382
室稼働率%		10.1%	0.0%	10.1%	13.0%	24.1%	15.1%	13.7%	34.4%	20.1%	12.3%	30.0%	28.1%	18.5%

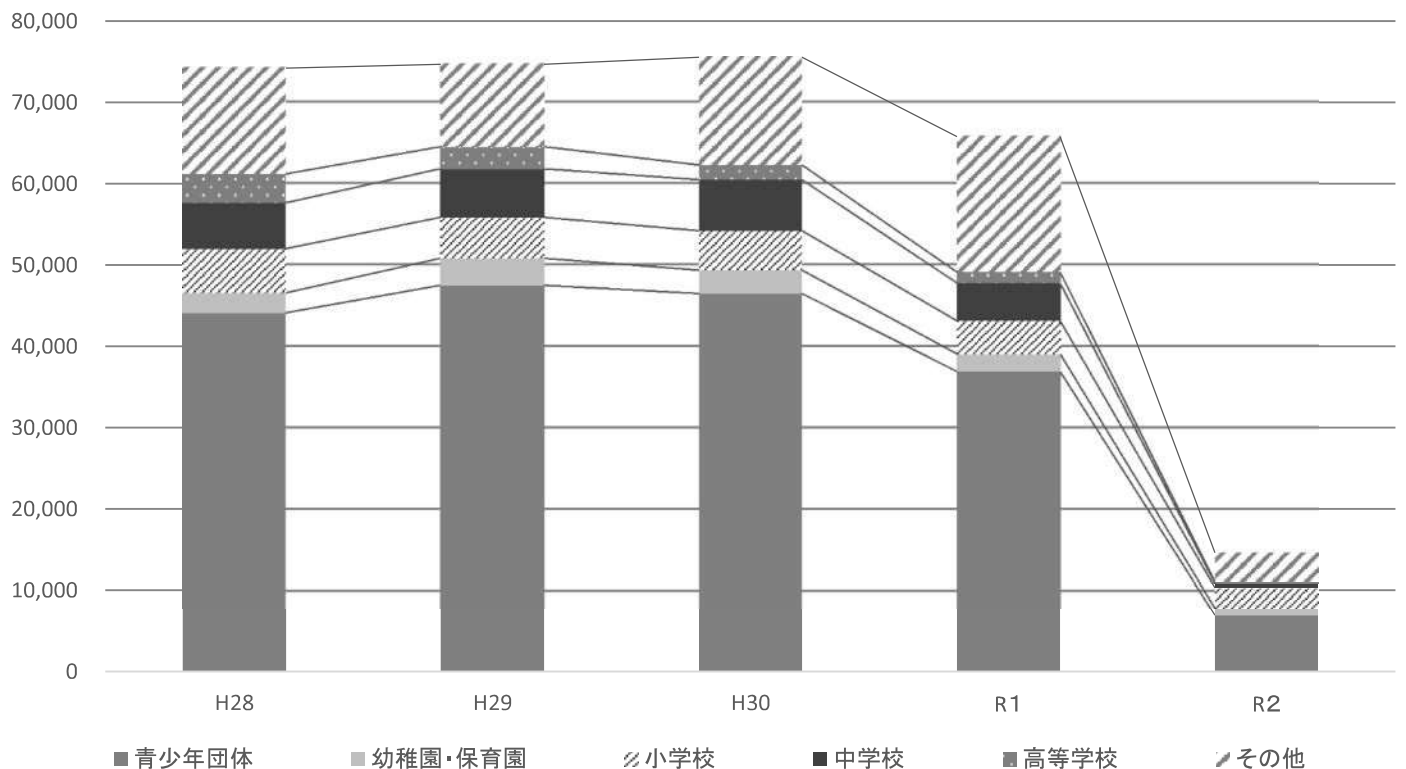
月別総利用者数の推移



(3) 団体別利用者総数の推移

団体種	年度	H28		H29		H30		R1		R2	
		団体数	利用者数	団体数	利用者数	団体数	利用者数	団体数	利用者数	団体数	利用者数
1.青少年団体 (当機構含む)	宿泊	328	27,332	342	28239	336	28299	252	19691	71	3397
	日帰	171	16,713	227	19204	219	18112	142	17155	92	3542
2.幼稚園 ・保育園	宿泊	11	772	11	1138	15	1034	11	956	2	51
	日帰	30	1,679	39	2181	33	1858	27	1226	28	827
3.小学校	宿泊	44	4,833	40	4502	40	4390	40	3814	31	1565
	日帰	22	603	22	520	30	462	19	243	41	916
4.中学校	宿泊	24	5,624	28	5923	25	6210	20	4522	4	270
	日帰	2	16	5	41	6	53	4	110	7	249
5.高等学校	宿泊	15	3,536	10	2699	9	1788	4	1321	3	217
	日帰	3	15	4	13	6	17	4	13	3	9
6.大学・短大 ・高等専門学校	宿泊	6	1,079	4	980	6	1909	4	956	2	10
	日帰	9	182	19	239	19	260	12	125	15	151
7.その他の学校	宿泊	5	630	6	609	4	194	2	114	2	120
	日帰	1	94	8	94	2	23	4	81	3	63
8.官公庁 ・企業等	宿泊	23	891	13	498	15	636	13	934	3	48
	日帰	19	904	25	414	39	1347	14	237	9	178
9.家族	宿泊	61	608	44	446	45	498	45	483	21	115
	日帰	92	422	98	425	83	352	44	306	51	199
10.その他	宿泊	94	4,863	67	4173	98	5418	101	8596	32	750
	日帰	95	3,447	81	2361	131	2691	148	4929	121	1942
合計	宿泊	611	50,168	565	49,207	593	50,376	492	41,387	171	6,543
	日帰り	444	24,075	528	25,492	568	25,175	418	24,425	370	8,076
総計		1,055	74,243	1,093	74,699	1,161	75,551	910	65,812	541	14,619

団体別利用者総数の推移



8 令和2年度における傷病発生状況

(1) はじめに

令和2年度に、当施設では延べ18,968人の利用者が活動を行った。利用者の健康と安全には所全体で取り組んでおり、ここ数年は利用者に対する傷病の発生率はほぼ横ばいの状況であったが、令和2年度は増加傾向にある。令和2年度の傷病発生状況について、傷病記録表・病院受診報告書をもとに、前年度と比較し、まとめたものを報告する。

(2) 傷病発生者総数

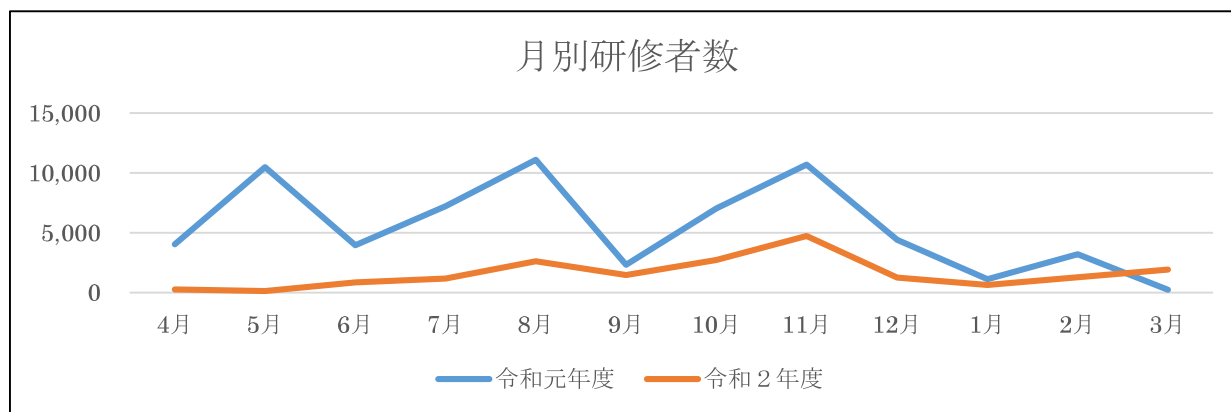
表1

	総数	内科系傷病 (%)	外科系傷病 (%)	利用者数に対する発生率
令和2年度	35	24 (68.6)	11 (31.4)	0.1885
令和元年度	71	50 (70.4)	21 (29.6)	0.1079
平成30年度	79	49 (62.0)	30 (38.0)	0.1046

(3) 月別研修者数及び傷病発生状況

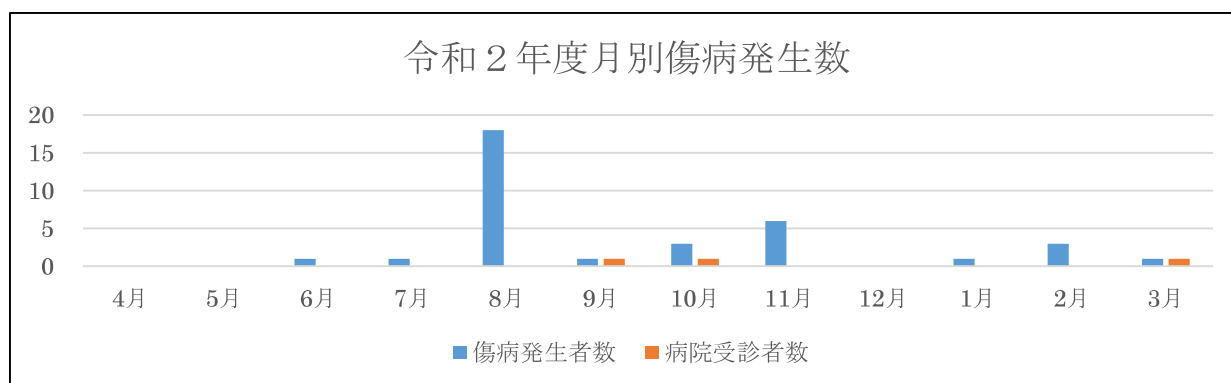
月別研修者数（稼動数）

表2



令和2年度 傷病発生者数・病院受診者数

表3



令和元年度 傷病発生者数・病院受診者数

表4

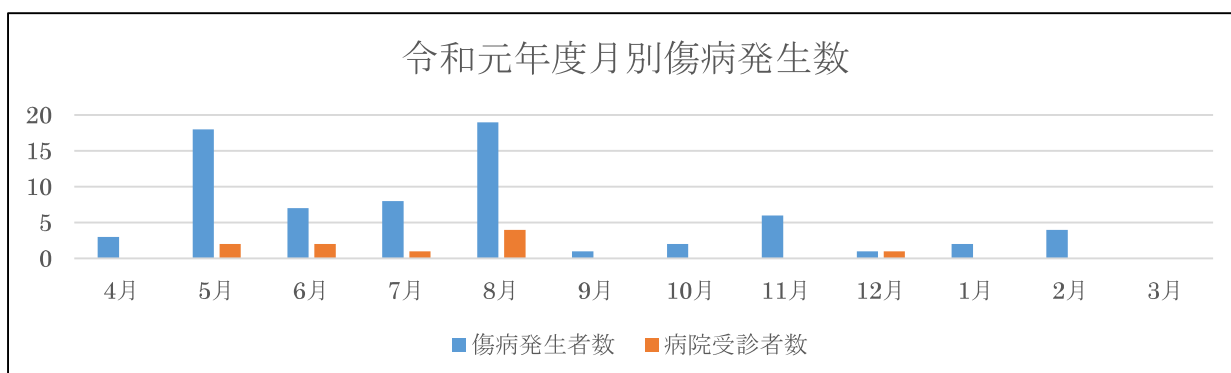


表4 令和元年度の研修者数と傷病発患者数は、ほぼ比例する傾向にあるが、表3 令和2年8月は、例年より多い結果となっており、利用者総数に対する発生率も令和元年度が0.1079%だったものが、令和2年度は0.1885%とやや増加している。病院受診者は、前年度が14人であったものが、本年度は3人であった。

(4) 傷病発生順位

表5

内科系	令和2年度	令和元年度	外科系	令和2年度	令和元年度
1位	頭痛	発熱	1位	切傷	捻挫
2位	腹痛・発熱	腹痛	2位	捻挫他	虫刺され
3位		頭痛・嘔吐	3位	(表6参照)	すり傷

下表は内科系と外科系それぞれの傷病発生の割合を表したものである。

表6

内科系傷病者数 (%)			外科系傷病者数 (%)		
	令和2年度	令和元年度		令和2年度	令和元年度
頭痛	5 (20.83)	5 (10.00)	切傷	4 (36.36)	1 (4.76)
腹痛	4 (16.67)	6 (12.00)	捻挫	1 (9.09)	5 (23.81)
発熱	4 (16.67)	12 (24.00)	虫刺され	1 (9.09)	4 (19.05)
嘔吐	2 (8.33)	5 (10.00)	すり傷	1 (9.09)	3 (14.29)
吐き気	1 (4.17)	4 (8.00)	打撲	1 (9.09)	2 (9.52)
咳喉の傷み	1 (4.17)	0 (0.00)	火傷	1 (9.09)	1 (4.76)
生理痛	1 (4.17)	2 (4.00)	かぶれ	1 (9.09)	0 (0.00)
脱水	0 (0.00)	3 (6.00)	骨折	0 (0.00)	2 (9.52)
過呼吸	0 (0.00)	1 (2.00)	突き指	0 (0.00)	1 (4.76)
倦怠感	0 (0.00)	1 (2.00)	鼻血	0 (0.00)	1 (4.76)
その他	6 (25.00)	11 (22.00)	その他	1 (9.09)	1 (4.76)
合計	23	50	合計	11	21

(5) 結果・考察

令和2年1月に日本で初めて新型コロナウイルスが確認され、4月には緊急事態宣言も発令されたことにより、施設の利用数が激減し、表1 傷病発患者総数は、前年の半数程度となった。表4を見ると、令和2年2月末から、拡散防止のため利用の受け入れを停止したため、傷病は発生していないことがわかる。現在は利用の受け入れを再開しているが、感染防止対策として人数や活動の制限を行っている状況が続いている。表5・6で内容を確認すると、内科・外科ともに、昨年のほぼ半数で、内訳についても大きな変化は無いが、症状は全体的に軽く、病院受診者は少ない結果となった。傷病発生率は増加しているが、新型コロナウイルス感染拡大以降、病気・怪我ともに軽症であっても職員や指導者へ相談する傾向にあるため、症状の悪化を防げたのではないかと考えられる。今後もマスクの着用、手洗いやうがい、手指消毒等、感染防止対策を促すとともに、安全対策・施設の環境整備につとめ、少しでも病気や怪我の発生及び重症化を防止していきたい。

(6) まとめ

新型コロナウイルスが確認され、「新しい生活様式」とし、感染対策や生活様式が様変わりしてきた。正しい情報を適宜収集するとともに、その中で安全に活動していくための配慮や工夫を今後とも続けていく必要がある。

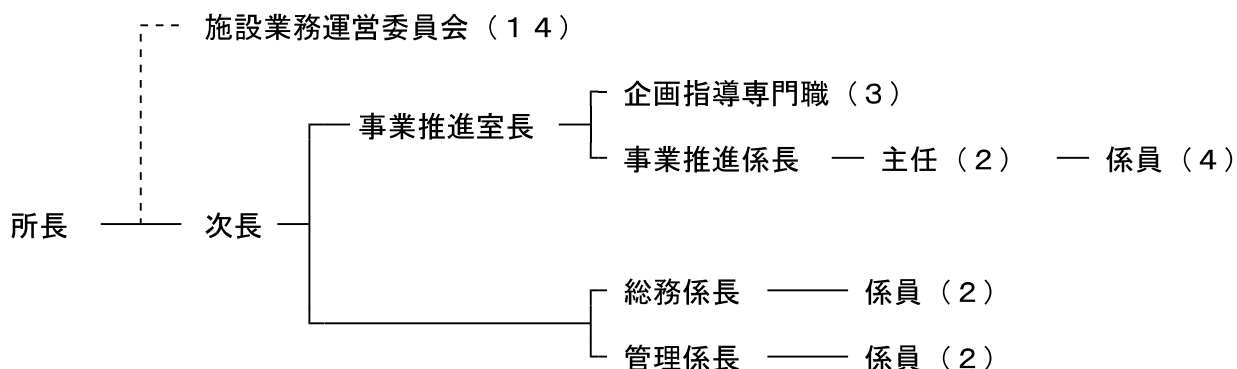
また、本施設周辺は、広大な自然に囲まれており、自然の美しさ、雄大さ、神秘さを感じることができる。その反面、自然の厳しさ、危険性も考え、利用者が無理なく安全に活動を展開できるよう、施設の管理・整備を充実していかなければならない。また、利用者の危険予知能力を高めるためにも、活動開始時の指導をさらに充実していく必要がある。

Ⅱ 令和２年度 業務運営の概要

１ 業務運営の組織

「独立行政法人国立青少年教育振興機構」は、平成１８年４月に「独立行政法人国立少年自然の家（１４施設）」、「独立行政法人国立青年の家（１３施設）」、「独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター」の３法人が統合されて発足した。

当施設は、その教育拠点施設の一つとして、下記の組織で構成されている。



当施設は、青少年教育を振興するための教育拠点として、地域及び関係機関と連携を深めながら、未来を見据えた時代の要請に応えるプログラムの開発を積極的に行い、健全な青少年の育成を図ることを目的としている。その具現化を図るために所内に次長を置き、青少年教育指導者及びその他の青少年教育関係者に対する研修、青少年への団体宿泊訓練や青少年教育に関する施設及び団体相互間の連絡・協力等の業務を、円滑かつ効率的に行うよう努めている。

２ 施設業務運営委員会

施設の円滑・効果的な業務運営を図るため、業務運営に関する重要事項について外部有識者から意見・提言等を聴くために設置している。委員会は、青少年の健全な育成にかかわる指導者や専門家、学校教育に携わる行政機関や学校責任者、地域の団体、行政機関、学識経験者、マスコミ関係者で構成されている。

令和元年度は、令和２年３月に、コロナウイルス感染拡大防止のため書面で開催し、令和２年度の事業運営方針及び教育事業計画、事業内容を提示するとともに、稼働率向上に向けた利用促進の取組並びに平成３１・令和元年度の教育事業、研修支援事業等の実績及び『鹿児島・宮崎「体験の風をおこそう」運動推進事業』の事業概要について報告を行った。

3 業務運営の概況

(1) 予算執行計画

ア 効率的な予算執行

既定経費の見直し及び経費の合理化を行い、予算削減に努めた。特に、施設内連絡会議での毎月の予算執行状況報告と併せて、光熱水料等の一般管理費の前年度との数値の比較を提示し、経費節減の共通理解・協力依頼を行った。

また、施設内連絡文書のミスコピー用紙の裏紙使用の周知及び施設内の計画的な整備（除草作業・掲示物の作成等）を職員で実施する等、一般管理費の削減に努めた。

イ 自己収入の確保

外部資金獲得のため、近隣の経済団体及び2020年において、請負総額50万円以上の業務委託及び工事等を行った企業等に寄附のお願いを発送、体験活動を通じた青少年の自立と社会教育施設の必要性等を訴え、寄附金への理解を得るための広報を行った。

また、協賛物品については、事業に供するための物品の提供を受け、活動の充実に資することができた。

今後も、外部資金の獲得に向けて、積極的に企業等を訪問し、協力依頼を行うこととしている。

(2) 施設・設備に関する計画

老朽化した施設・設備の維持・保全及び利用者に対する安全・安心の提供による稼働率の向上のため、次のような整備を行った。

また、今後も既存の施設・設備の点検等を定期に実施し、早期に不良箇所を発見し、保全・改修を行い、利用者の活動に支障が生じないように努めていきたい。

ア タイル壁画補修

1階玄関ホール、連絡通路にあるタイル壁画が劣化し、落下していたため補修を行った。

イ 駐車場ソーラー外灯改修

駐車場における夜間の安全確保を図るため、駐車場LED照明を改修した。

ウ 温蔵庫

食事の提供に関して、食中毒を防止するため、適温で保管できる温蔵庫を整備した。

エ 空調機修理

学習室や宿泊棟の空調機の故障に際し、熱中症を防止し利用者の活動に支障が生じないように、修理について迅速に対応した。

Ⅲ 令和３年度 国立大隅青少年自然の家運営方針

１ 基本的な運営方針

- (1) 青少年教育のナショナルセンターとして、次代を担う青少年の自立に向けた健全育成を総合的に推進する。その際、青少年が社会の担い手となることを支援する拠点としての役割や「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた学校との連携強化を図るとともに、今後の地域における社会教育が目指す役割（人づくり・つながりづくり・地域づくり）として、学びと活動の循環が重要であることを踏まえる。
- (2) 国土強靱化基本計画によるリダンダンシー（広域防災補完拠点）としての防災・減災教育等の推進や子供の貧困対策等の国の政策実現に向けた取組の推進を図る。
- (3) 利用団体への教育的支援の充実、家庭・地域の教育力の向上や体験活動の普及、地域との連携・協働の推進による地域貢献を重点事項と捉え、教育事業や研修支援等において体験活動をより一層推進する。
- (4) 業務運営全体を通じて、新型コロナウイルス感染症対策を含めた安全管理意識の徹底を図るとともに、様々な関係機関との連携を意識しながら体験活動の充実を目指す。

【参考】

- ※ 「第３期教育振興基本計画」（平成30年６月15日閣議決定）
- ※ 「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（答申）」
(平成30年12月21日)
- ※ 「独法改革に関する国の動向とこれまでの機構の主な対応等について」

２ 事業運営に関する重点事項

- (1) 子供たちの知・徳・体のバランスのとれた成長に大切な様々な体験活動や基本的生活習慣の重要性を普及するため、教育事業や研修支援等を通じて、青少年教育団体等と連携して「体験の風を起こそう」運動及び「早寝早起き朝ごはん」国民運動を連動させて取り組み、体験活動の機会や場を充実させるとともに、青少年の基本的生活習慣の確立を目指す。
- (2) 施設の個性化、高度化、拠点化を目指した特色あるプログラムや国の政策実現に向けたプログラムの開発及び拡充を行う。
 - ① 特色あるプログラムの開発・拡充
 - ② 国土強靱化計画に資する防災・減災教育プログラムの開発・拡充
 - ③ SDGsの達成・ESDの推進に資するプログラムの開発・拡充

３ 教育事業の質の充実と普及

- (1) 次代を担う青少年の自立に向けた健全育成事業
青少年の健やかな成長と自立を推進するため、青少年教育のナショナルセンターとしての機能の向上、人づくり・つながりづくり・地域づくりという側面に留意した教育事業を実施する。
 - ① 社会の要請に応える体験活動事業の実施
 - ア 親子や幼児等を対象に自然体験や読書活動などに親しむ教育事業
家族のつながりを深めるとともに、他の家族との交流を図り、基本的生活習慣や社会規範等の社会性を身に付けさせることを目的に「ファミリーキャンプ」を６回実施する。
また、当施設の特色ある活動プログラムや季節に合わせた自然体験や読書活動を実施し、体験することの楽しさや重要性について普及・啓発を図る。
 - イ 青少年を対象に自己成長や自己実現等を図る教育事業
小学１・２年生及び小学３・４年生を対象に、共同生活や自然体験活動を行い、仲間と関わったり協力したりしながら基本的生活習慣を身に付けさせるとともに、自立心や自尊

感情を育てることを目的に「キッズたんけん隊」をそれぞれ1回実施する。

なお、標記の教育事業は、県内の青少年教育施設や青少年団体等への普及及びプログラムの活用を考慮し、関係機関等と連携して実施するとともに、この事業に関わるボランティアのスキルアップにも努める。

ウ 防災学習や環境学習などESDに対応した教育事業

国土強靱化基本計画によるリダンダンシー（広域防災補完拠点）としての防災・減災教育等を推進することを目的に「ファミリー防災キャンプ（仮称）」を実施する。

② モデル的事業の実施

関係機関・団体や公立青少年教育施設、大学の研究者等と連携した上で、報告書等を通して広く青少年教育関係者へ発信する。

※ 実施方法の留意点

ア 事業のねらいに対応した実践研究を大学の研究者等と協働で行い、評価を得る。

イ 青少年のための専門性の高いモデル的体験活動を取り入れる。

ウ 体験活動の効果測定等を行い、その重要性の普及に努める。

エ 成果等については、第四期中期目標期間内に報告書を2回作成する。

ア 実践研究事業

長期自然体験活動を通して、豊かな人間性や青少年の生きる力を育むとともに、異年齢との交流を図りながら、不登校など心に悩みをもつ青少年の自立を支援することを目的に「海からのメッセージ」を実施する。

なお、県内の青少年教育施設及び鹿屋体育大学海洋スポーツセンターと連携するとともに、研修会等における報告を通して広く鹿児島県の青少年教育関係者へ発信する。

イ 地域の実情を踏まえた体験活動事業

(ア) 特色あるプログラムの事業

錦江湾内の漂流物を採集し、それらがどんなものでどこから流れ着いたかを考えることを通して、海・自然・人とのつながりに気付かせる。また、漂流物を使ったクラフト活動を通して、それらを生かす工夫や環境問題に目を向けさせることを目的に「漂流物たんけん隊」を実施する。なお、実施の際には、公立青少年教育施設等に学習方法が活用されるよう、企画段階から関係機関・団体等と連携して実施する。

(イ) 全国高校生体験活動顕彰制度に関連する事業

高校生を対象に、体験活動を通して地域が抱えている課題を自ら見だし、その解決に向けた探求活動を通して、社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育成することを目的に「地域探求プログラムオリエンテーション合宿」を実施する。

(ウ) 地域の教育力を高める事業

鹿屋体育大学との連携協定に基づき、青少年の体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上やコミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援することを目的に、「おおすみくん家スポーツキャンプ」（バレーボール・野球・バスケットボール）を実施する。

③ 課題を抱える青少年の支援事業

ア 児童養護施設に入所する児童を支援する事業

児童養護施設及び母子生活支援施設で生活する子供たちを対象に、自然体験活動及び生活体験活動を通して基本的な生活習慣の確立等の課題に対応するため、生活・自立支援事業「子ども生き生き体験学習」を実施する。

イ 不登校、引きこもり、ネット依存等の発達障害や身体障害など課題を抱える青少年の支援事業

鹿児島県教育庁義務教育課と連携して、不登校及び不登校傾向の小・中・高校生を対象に、自然体験活動の楽しさや人とのふれあいの大切さを知ること、目的に、「おおすみく

ん家に遊びに来ませんか！」を6回実施する。

④ 青少年の国際交流の推進

青少年の異文化交流の増進を図るため、鹿屋市教育委員会学校教育課及び鹿児島県アジア・太平洋農村研修センターと連携して、青少年の異文化理解を促進する体験型の交流事業「イングリッシュキャンプ」を実施する。（鹿児島・宮崎「体験の風をおこそう」運動推進事業として実施する。）

⑤ 地域ぐるみ事業

鹿児島県及び宮崎県、市町教育委員会、青少年教育施設、学校、青少年団体、企業、NPO法人等と連携し『鹿児島・宮崎「体験の風をおこそう」運動推進事業』を推進するとともに、協力団体の拡充に努める。

特に、体験の風をおこそう推進月間（10月）を中心に、地域や関係機関等と連携し、多様な事業等を展開するとともに事業の登録を働きかける。

(2) 青少年教育指導者等の養成事業及び関係機関・団体等との連携促進

① 自然体験活動指導者養成事業（NEAL養成事業）の実施

青少年に良質な体験活動の機会と場を提供するためには、質の高い指導者を養成することとが必要不可欠であることから「自然体験活動上級指導者（インストラクター）研修会」を実施し、青少年教育指導者等の資質・能力の一層の向上を図る。

※ 実施方法の留意点

自然体験活動指導者養成事業を九州ブロックで、自然体験活動指導者（リーダー）養成事業を2事業以上、自然体験活動上級指導者（インストラクター）養成事業を1事業以上実施する。令和3年度は、国立大隅青少年自然の家が輪番で自然体験活動上級指導者（インストラクター）養成事業を実施する。

② ボランティア養成・研修事業の実施

教育事業や研修支援等の運営協力・指導補助などを担うボランティアを育成し、青少年教育におけるボランティア活動の一層の推進を図るとともに、「ボランティア養成共通カリキュラム」に準拠した「ボランティア養成研修」を実施する。

③ 教員免許状更新講習の実施

新学習指導要領の趣旨を踏まえ、自然体験や集団宿泊活動等に必要な知識・技術の向上を図るため、2泊3日の「教員免許状更新講習」を実施する。※ 令和3年度は実施しない。

④ 外部研修指導員等の活用

利用者に良質な体験活動を推進するために、外部研修指導員の拡充を図るなど、指導力向上の研修を実施する。

4 研修支援の充実との利用拡大

(1) 研修利用の充実

宿泊室稼働率50%及び青少年人口（0～29歳）の1割程度の利用実績を確保するために、「稼働率向上（利用者増加）のための数値目標の設定及び行動計画」を策定し、着実な実施に努めるとともに、利用状況の分析や利用団体に対するアンケート調査を行い、利用促進に向けた方策を検討・実施する。

※ 令和3年度目標

期 間		年 間	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
利用者数 (人)	合 計	74,000	21,000	21,000	21,800	10,200
	日帰り	24,100	6,000	4,000	11,900	2,200
	宿 泊	49,900	15,000	17,000	9,900	8,000
宿泊室稼働率 (%)		53.7	48.0	65.0	49.0	53.0

(2) 活動プログラム等における教育的な指導及び支援の充実と検証

利用団体の特性や目的を把握した上で多様なプログラム提案を行うとともに、適切な指導・助言を行う。また、引率者を対象としたアンケート（施設利用に関するアンケート調査）によって、教育的指導及び支援の充実に努める。

さらに、活動プログラム等の方法・効果が明確になるよう教材や指導資料等の工夫・見直しを行うとともに、事前打合わせ等でのＩＣＴ機器の活用に努める。

(3) 学校との連携・協働による体験活動プログラムの充実

学習指導要領に基づき、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた学校との連携を強化し、「主体的・対話的で深い学び」が可能となる活動プログラムを各年齢期に応じて提供する。

- ① 幼児期：自然を活用した幼児期の運動プログラムを活用した場づくり
- ② 小・中学校：集団宿泊行事等における教科等と関連付けた体験活動プログラム
- ③ 高等学校：「地域探求プログラム」のオリエンテーション合宿

(4) 利用状況の検証と広報の充実

四半期ごとに利用者数及び施設利用に関するアンケート調査結果に対する増減の要因を検証する。また、学校、青少年団体、地元関係者等に対する広報は効率的かつ効果的な計画を作成し、確実に実行するとともに、年度末に研修支援等の体制に関する検証を行う。

- ① 施設業務運営委員会などで幼稚園・保育園、小・中学校、高等学校、大学、スポーツ少年団等の年間広報計画（直接訪問計画を含む）を立て、全職員で広報活動に取り組む。
- ② ホームページの計画的更新に努めるとともに、フェイスブックやLINE等の媒体を有効活用して、積極的に事業等の情報を発信する。
- ③ 鹿児島県教育庁社会教育課及び鹿児島県政記者クラブ（青潮会）等との連携を図り、プレスリリースを行うとともに、地元新聞社、テレビ局、ラジオ局のマスメディアを積極的に活用し、広報の充実を図る。
- ④ ファミリー会員制度登録者を対象にして、優先的に事業案内を行い、会員相互の交流及び当施設の利用促進を図る。
- ⑤ 道の駅、フェリー乗り場等、様々な集客施設及び新規の広報箇所（雑誌、地方公共団体等）に協力依頼を行うなど、広報紙配布及び情報提供など効率的な広報に努める。

5 安全安心な教育環境の確保

(1) 施設における安全管理研修の計画・実施及び安全対策マニュアルの整備

施設における安全研修の年間計画を策定し、全ての事業系職員が安全対策を図った上で指導ができるよう研修を行う。また、「危機管理関係マニュアル点検方針」及び安全点検マニュアル等の点検、見直しを常時行う。

特に、海浜活動をはじめ野外活動時に不測の事態が発生した時は、全職員が迅速かつ適切に対応ができるよう「安全対策マニュアル」に基づいて行動する。

(2) 安全安心な教育環境づくり

新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図るとともに、教材教具・活動備品、活動場所等の日常的な点検・整備を通じて、安全安心な教育環境を確保する。

また、鹿児島県教育庁大隅教育事務所及び鹿児島海上保安部・喜入海上保安署等関係機関と連携し、海浜活動に関する安全対策について協議することを目的として、「海浜活動安全対策協議会」を開催する。

(3) 緊急連絡網の整備

利用者及び職員に不測の事態等が生じた場合に適切及び迅速な対応ができるよう、全職員及び本部・関係部署並びに業者等への緊急連絡網を整備し、随時見直し更新を図る。

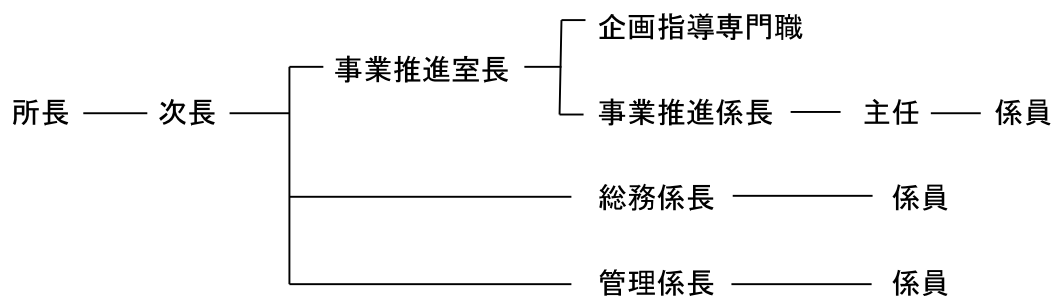
(4) 安全管理・衛生管理の徹底

利用者及び職員に不測の事態等が生じた場合に適切及び迅速な対応ができるよう、日頃から危機的状況を想定し、適切な対応ができるよう体系を構築する。

- ① 宿泊室やトイレ等の生活環境エリアの不良箇所等の早期発見及び早期修繕を行う。
 - ② 安全管理・衛生管理に関する情報を全職員へ周知徹底する。
 - ③ 地形、気象、動植物等の危険要因に関する情報を利用者へ提供するとともに、野外・海浜活動記録簿を活用し、安全対策の指導・助言を徹底する。
 - ④ 活動用具や火気等の取扱いの指導を徹底する。
 - ⑤ 新型コロナウイルス等の感染症及び食中毒の予防の徹底を図るとともに、発生時の迅速な対応を行う。
 - ⑥ 喫煙者の空間分煙を徹底する。
 - ⑦ 定期健康診断及びその他各種検診等を行い、職員の健康増進に努めるとともに、身体及び心の健康に関する相談等の充実を図るなど、職員の健康管理を充実する。
 - ⑧ 人権擁護、セクハラ防止等を徹底するとともに、相談制度を充実する。
 - ⑨ 盗難・盗撮・事故防止のためのセキュリティ対策を再確認するとともに整備する。
 - ⑩ 情報セキュリティの整備を図る。
- (5) 安全管理・危機管理に関する研修・訓練の実施
不測の事態等に関して、職員が迅速かつ適切な対応ができるよう、所内研修及び専門訓練等を実践に実施し、技術・熟練度の向上を図る。
- (6) 緊急時の対応（火災・地震・自然災害等）
火災や地震、自然災害等の緊急時における職員の対応として、利用者の安全で速やかな避難、負傷者の適切な救助、汚染拡散防止（二次被害の防止）等に関する知識や技能を身に付けるとともに、防災に関する意識の高揚を図ることを目的に、避難訓練を年2回（火災・地震）実施する。

6 業務運営に関する事項

(1) 組織



(2) 効率的・効果的な組織の運営

① 地域と連携した施設の管理運営

施設業務運営委員会の中に、NPO・企業・各種団体等の代表者が、実際に事業の企画・実施や施設の管理運営、施設の利用促進に参画する専門部会を設置し、効率的・効果的な施設の管理運営に努める。

また、地元企業等との連携も視野に入れ、特に青少年教育活動に賛同していただける企業と連携・協力しながら、教育事業を推進していくことも考慮していく。

② 計画的な人事評価

個々の能力を最大限に発揮させ、組織の活性化を図り効率的な事業運営に資するため、業績評価を年2回、能力評価を年1回実施する。

(3) 効率的な予算執行

管理運営経費縮減のため、既定経費の見直しを行うとともに業務の合理化により、対前年比1%以上の縮減を図る。

- ① 光熱水料の節減・節約
冷暖房の細かな運転管理、冷暖房吹出温度・期間の管理及び活動プログラムの調整により、効率的な活動計画を行い、光熱水料削減に努める。また、利用者に対しても、打合せ時に節減協力の要請を積極的に行う。
- ② 適切な外部委託
外部委託業務の簡素化・効率化を検討し仕様内容の見直し等進めながら外部委託を行うとともに、業務が仕様書通りに履行されているか日々の状況確認を徹底する。また、経費の必要性を検討し、職員でその業務の実施をする等、経費削減への対応に努める。
- (4) 自己収入の確保
積極的に外部資金等、自己収入を確保し事業運営への活用を図る。
 - ① 協賛事業の積極的な推進
企業等への当施設の持つ機能の理解促進を図り、外部資金による事業等の実施に努める。
 - ② 寄附金の受入の推進
青少年教育活動に理解を得るための広報活動を充実させ、ホームページへの掲載等による企業等からの寄附金の募集を積極的に行い、受入の推進を図り、寄附金の増加に努める。
 - ③ 受益者負担による収入の確保
自己収入の拡大を図るため、新規の受益者負担及び関連の制度見直しを行う。
 - ④ 土地・建物等の貸付及び清涼飲料水（自動販売機）の提供委託業務の工夫・改善
土地・建物等の貸付については、利用者の利便性を損なわないよう売店等とする。また、清涼飲料等（自動販売機）の提供委託業務については、売上を考慮した商品の入替等を行い、手数料収入の増を図る。
 - ⑤ 受託実習生の積極的な受入
受託実習生について、受入体制を整備し、連携機関との連携を強化し、受入増を図る。
 - ⑥ 受託事業、協賛事業の積極的な事業推進
当施設の持つ機能の理解促進を図り、積極的に外部資金の確保に努める。
- (5) 計画的な施設・設備の改修整備の実施
利用者が快適にまた安心して生活し、体験活動も効果的に実施されるよう、施設・設備の改修整備を進める。また、既存施設・設備について、利用者アンケート、利用状況及び運営委員会等により利用者の意見やニーズの把握に努め、効率的な研修活動が図られるよう必要な改修整備を進める。特に、自然体験活動エリア内において、利用者の安全性を確保するため、緊急性・必要性を勘案し優先順位を決定するとともに、屋内外用具・設備等の改修整備を進める。
また、利用者の安全性及び利便性を優先するために、補修箇所を速やかに発見し対応できるよう職員による定期的な巡回の回数、範囲、方法や点検項目等の見直しを図る。
 - ① 防災の観点に立った整備
安全な利用者の活動・生活環境の確保のため、老朽化している箇所の改修整備計画を立て、緊急性・必要性を勘案して優先順位を決定するとともに、屋内外用具・設備（インラインスケート場、マウンテンバイクコース等）の改修整備を進める。
 - ② 研修環境の確保の観点に立った整備
研修環境の改善として、当施設のキャッチフレーズである「錦江湾・黄金の夕日 大隅」としての眺望を確保するよう環境整備を行う。
 - ③ 利用者の意見等を反映した整備
教育事業参加者、研修支援における利用者の意見や利用団体活動の多様化に対応するため、施設（管理研修棟・学習棟・宿泊棟・キャンプ場・新城海の家・太陽の家・いろり庵等）における生活環境の整備を進める。
 - ④ 高齢者及び身体の不自由な方に配慮した改修整備

高齢者及び身体の不自由な方が安心して快適な活動ができるように施設・設備の点検及び改修整備を進める。

Ⅳ 令和3年度 教育事業等計画一覧

Ⅰ 次代を担う青少年の自立に向けた健全育成事業

1. 生活リズムに関する普及啓発事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	募集 人数 (人)	連携・協力団体
1	おおすみくん家 キッズたんけんたい◎・◎	小学校低・中学年の子どもたちが親元を離れて共同生活や自然体験活動を行い、仲間と関わり、協力したりする活動を通して、自立心や自尊感情を育てる。	◎ 9.19(日)～20(祝・月)(1泊2日) ◎ 10.23(土)～24(日)(1泊2日)	◎ 小学1・2年生 ◎ 小学3・4年生	各40	
2	おおすみくん家 通学合宿 ◎ ～◎	集団宿泊生活や生活体験活動を行いながら普段の学校生活を送ることを通して、望ましい生活習慣や学習習慣を身に付けるとともに、連帯感や協調性を育てる。	11.8(月)～12.11(土) 1.11(火)～ 3.4(金)(13週)	小学3～6年生	各40	

2. 体験活動や読書活動に関する普及啓発事業

※ 2～5は、鹿児島・宮崎「体験の風をおこそう」運動推進事業として実施

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	募集 人数 (人)	連携・協力団体
1	体験の風をおこそう ファミリーキャンプ◎・◎	自然体験・生活体験等を通して、家族の絆を深めるとともに、子どもの豊かな情操を養う。 ※ ◎ は、「ファミリー防災キャンプ」(仮称)として実施予定	◎ 5.29(土)～30(日)(1泊2日) ◎ 6.26(土)～27(日)(1泊2日) ◎ 8.28(土)～29(日)(1泊2日) ◎ 12.18(土)～19(日)(1泊2日) ◎ 1.22(土)～23(日)(1泊2日) ◎ 2.5(土)～ 6(日)(1泊2日)	子ども・親	各60	
2	体験の風をおこそう スタンプラリー	鹿児島・宮崎「体験の風をおこそう」運動の協力団体が実施する事業をスタンプラリーとして実施し、各協力団体の事業広報活動の充実と各地域における体験活動の推進を図る。	7月～12月	子ども・親・一般	100	鹿児島・宮崎「体験の風をおこそう」運動協力団体
3	子どもゆめ基金募集説明会 【宮崎会場】【鹿児島会場】	子どもゆめ基金の令和4年度申請に関する説明会を実施し、宮崎県及び鹿児島県の各地域における体験活動等を一層充実させ、子供の健全な育成の推進を図る。	宮 崎: 9.11(土)(1日) 鹿児島: 9.12(日)(1日)	申請予定団体	40 100	鹿児島・宮崎「体験の風をおこそう」運動協力団体
4	ばら祭りウォーキング大会	関係機関と連携し、ウォーキング活動を通して、「体験の風をおこそう」運動の普及啓発を図る。	11.3(水)(1日)	子ども・親・一般	－	鹿屋市 かのやばら祭りウォーキング大会実行委員会
5	体験の風をおこそうフェスティバルinおおすみくん家	子ども・親・一般の方々に当施設の活動プログラムを通して、体験活動の重要性を啓発するとともに、当施設の利用促進を図る。	12.4(土)～ 5(日)(1泊2日)	子ども・親・一般	－	鹿児島・宮崎「体験の風をおこそう」運動協力団体

3. 長期自然体験活動事業(実践研究事業を兼ねる。)

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	募集 人数 (人)	連携・協力団体
1	海からのメッセージ	鹿児島湾(錦江湾)を舞台に、海の素晴らしさや厳しさを体験することにより海の良さを知り、「生きる力」を育む。 また、長期自然体験活動を通して心に悩みをもつ児童生徒の自立を支援する。	8.6(金)～12(木)(6泊7日)	小学5年生～中・高校生(心に悩みをもつ児童生徒を含む)	32	鹿屋体育大学 関係漁業協同組合 鹿児島海上保安部 ほか

4. 課題を抱える青少年の支援事業

※ 2は、生活自立支援事業として実施

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	募集 人数 (人)	連携・協力団体
1	おおすみくん家に遊びに来ませんか! ◎ ～◎	不登校及び不登校傾向のある小・中・高校生が体験活動や自然との触れ合い、グループでのレクリエーション活動等を通して、野外活動の楽しさや人との触れ合いの大切さを知る。	◎ 6.19(土)(1日) ◎ 9.4(土)(1日) ◎ 10.16(土)(1日) ◎ 11.20(土)(1日) ◎ 1.15(土)(1日) ◎ 3.5(土)(1日)	不登校及び不登校傾向のある小・中・高校生	各10	鹿児島県教育委員会
2	子ども生き生き体験学習	児童養護施設で生活する児童生徒を対象に自然体験及び生活体験の活動を通して、生活・自立を支援するとともに、児童生徒の基本的な生活習慣の確立を目指す。	7.28(水)～29(木)(1泊2日)	児童養護施設の児童生徒	20	桜島学園

5. 防災・減災教育事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	募集 人数 (人)	連携・協力団体
1	ファミリー防災キャンプ(仮称)	全国的に頻発している災害について、親子に必要な知識を得るとともに、防災意識を高め、もしもという場合の対応方法を実践することにより、災害時の行動について考えを深める。 ※ ファミリーキャンプ◎として実施予定	1.22(土)～23(日)(1泊2日)	子ども・親	60	

6. 特色あるプログラム事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	募集 人数 (人)	連携・協力団体
1	おおすみくん家 漂流物たんけん隊	錦江湾内の漂流物を採集し、それらがどんなものでどこから流れ着いたかを考えることをとおして、海・自然・人とのつながりに気付かせる。また、漂流物を使ったクラフト活動をおとして、それらを生かす工夫や環境問題に目を向けさせる。	10.30(土)～31(日) (1泊2日)	小学5・6年生	20	鹿児島大学

7. 実践研究事業(長期自然体験活動事業を兼ねる。)

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	募集 人数 (人)	連携・協力団体
1	海からのメッセージ	鹿児島湾(錦江湾)を舞台に、海の素晴らしさや厳しさを体験することにより海の良さを知り、「生きる力」を育む。 また、長期自然体験活動を通して心に悩みをもつ児童生徒の自立を支援する。	8. 6(金)～12(木) (6泊7日)	小学5年生～中・高校生(心に悩みをもつ児童生徒を含む)	32	鹿屋体育大学 関係漁業協同組合 鹿児島海上保安部 ほか

8. 全国高校生体験活動顕彰制度オリエンテーション合宿

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	募集 人数 (人)	連携・協力団体
1	全国高校生体験活動顕彰制度オリエンテーション合宿○・ ①	地域の魅力を発見したり、抱えている課題を自ら見いだしたりする探究活動を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、実践活動に必要な考え方・知識を学習する。	○ 7.10(土)～11(日) (1泊2日) ① 7.17(土)～18(日) (1泊2日)	2回とも参加できる 県内の高校生	15	鹿屋市観光協会

Ⅱ 青少年教育指導者等の養成事業

1. ボランティア養成・研修事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	募集 人数 (人)	連携・協力団体
1	ボランティア養成研修	青少年教育施設の役割を理解するとともに、野外活動等の指導・支援ができるボランティア及び指導者の養成・確保を図る。	6. 5(土)～ 6(日) (1泊2日)	15歳以上・一般	40	鹿児島大学 大隅肝属地区消防組合

2. 自然体験活動指導者(NEAL)養成事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	募集 人数 (人)	連携・協力団体
1	自然体験活動上級指導者(インストラクター)養成事業	青少年をはじめとする多くの人々に対し、自然体験活動等の指導・支援及び推進ができる指導者の資質・能力の向上を図る。	4.27(火)～30(金) (3泊4日)	18歳以上・一般	20	鹿屋体育大学 アウトドアショップキャメル

Ⅲ 独自事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	募集 人数 (人)	連携・協力団体
1	宿泊学習等利用者説明会 ○ ～①	宿泊学習等における活動プログラムや施設利用について必要な事前説明を行うことにより、児童生徒の活動を充実させる。	○ 4.16(金) (1日) ① 4.22(木) (1日) ② 8.25(水) (1日)	登山・ハイキング活動及び海浜活動を計画している学校・青少年団体等の引率者	各20	関係小中学校・特別支援学校
2	おおすみくん家 スポーツキャンプ 【バレーボール】	鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき、青少年の体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上やコミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。	5.22(土)～23(日) (1泊2日)	中学生の関係部活動部員及びその指導者	80	鹿屋体育大学
3	おおすみくん家 スポーツキャンプ【野球】	鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき、青少年の体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上やコミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。	7.24(土)～25(日) (1泊2日)	中学生の関係部活動部員及びその指導者	80	鹿屋体育大学
4	おおすみくん家 スポーツキャンプ 【バスケットボール】	鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき、青少年の体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上やコミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。	2.19(土)～20(日) (1泊2日)	中学生の関係部活動部員及びその指導者	80	鹿屋体育大学
5	少年少女登山教室	登山を通して、人が自然と関わることの素晴らしさ、スポーツとしての登山の楽しさを味わわせる。	11. 6(土)～ 7(日) (1泊2日)	小学4年～中学生	30	鹿児島県山岳・スポーツ クライミング連盟

『私たちは国立大隅青少年自然の家の活動を応援しています』

一般財団法人 九州電気保安協会 鹿屋事業所

医療法人青仁会 池田病院

医療法人和敬会 平和台病院

大隅鹿屋病院

鹿屋衛生管理センター株式会社

株式会社ウォーターテック 西日本支店

株式会社園幸

株式会社カナザワ

株式会社きたやま

株式会社宮生企画

株式会社コシマ工務店

株式会社坂元電気工事

株式会社桜島

株式会社新生社印刷

株式会社総合印刷

株式会社レモンガスかごしま 鹿屋支店

小鹿酒造株式会社

社会医療法人恒心会 恒心会おぐら病院

大海酒造株式会社

中外電工株式会社 鹿屋営業所

有限会社洩上事務器

有限会社松久保電機

有限会社森伊蔵酒造

有限会社泰夫水産

有限会社熊南空調システム

綿久リネン株式会社 九州支社 南九州工場

有限会社南九

医療法人義貫会